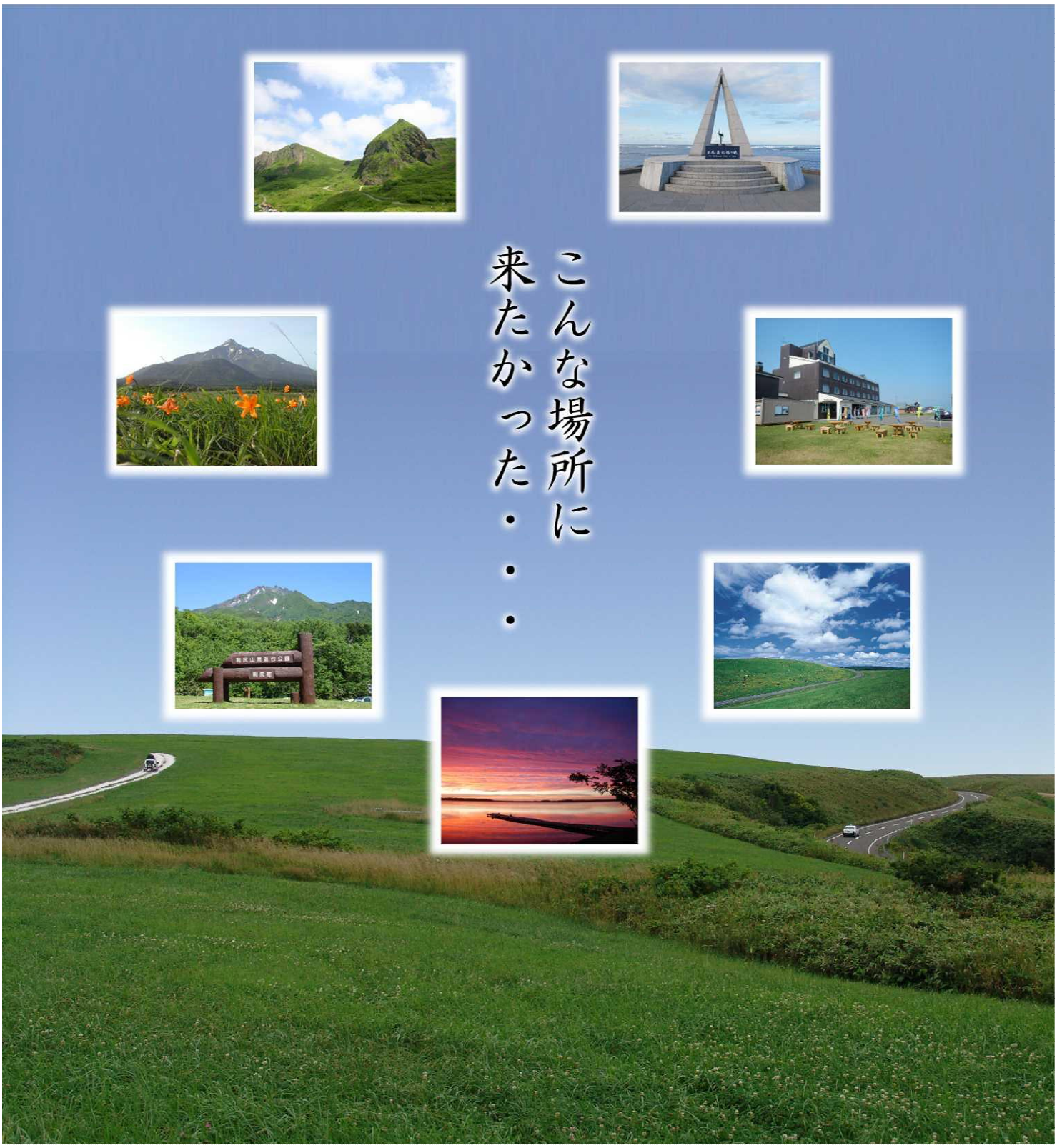


宗谷シーニックバイウェイ
ルート運営活動計画

平成27年4月＜見直し改訂版＞

宗谷シーニックバイウェイ　ルート運営代表者会議

－ は じ め に －

均整の取れた美しさを色とりどりの四季や見る場所、そして夕日によってドラマチックなシーンを演じてくれる利尻富士を有する宗谷は、最北の街稚内市や花の浮島と謳われる礼文島、そして広大な高層湿原であるサロベツ原野、ホタテと酪農が盛んで北海道一広い村猿払村、ラムサール条約湿地クッチャロ湖を有する浜頓別町が、北緯４５度の日本最北エリアを形成しております。

この最北エリアは、本州であれば 2000m級の高山でしか見られないような可憐な植物が低地でも見ることができ、北海道でも唯一の固有種も多彩です。また、産業景観としても牧草ロールが点在する放牧地帯は広大で、大自然の恵みの中で育っている牛たちの姿は、まるで北欧を彷彿させる景観を形成しています。

優れているのは景観ばかりではなく、カニをはじめとする食材も豊富で、出汁昆布として有名な利尻昆布、そしてその昆布で育ったウニは絶品を極め、貝の王様ホタテ貝など、逸品の魚や貝類の食材は大きな魅力です。

このように、宗谷シーニックバイウェイは東京・大阪・名古屋などの都市圏からは遠く離れた地域がゆえに憧れの地と称されており、自然景観、抜群の食材など、これら宗谷の持つファクターをハートフルなおもてなしで、シーニックを通じた連携によって魅せていくことで、日本最北地域という距離的ハンデを克服し、当地域ならではの魅力づくりを目指します。道路とともにフェリー航路もバイウェイとして位置付け、宗谷らしいバリエーションとして独自の魅力を演出していきます。

また訪日外国人旅行者 2000 万人のさらなる高みを目指し、近年は、宗谷シーニックバイウェイとしても、外国人旅行者の誘致に力を入れていきます。

平成２７年４月

宗谷シーニックバイウェイ運営代表者会議

代　表　　中　場　　直　見

－ 目 次 －

ページ

1. 宗谷地域の位置及びエリア 1

2. ルートの概要 2

（1）ルートの名称とテーマ 2
（2）ルートストーリー 3
（3）ルートの呼称 7
（4）各ルートの概要 8

3. ルートにおける活動の現状 61

4. ルートストーリー実現に向けた活動 70

（1）各活動の目標 71
（2）各活動の方針及び取組み 72

5. ルートの運営 73

（1）ルート運営方針 73
（2）運営体制とその役割 75
（3）行政との連携 77

参考資料 78

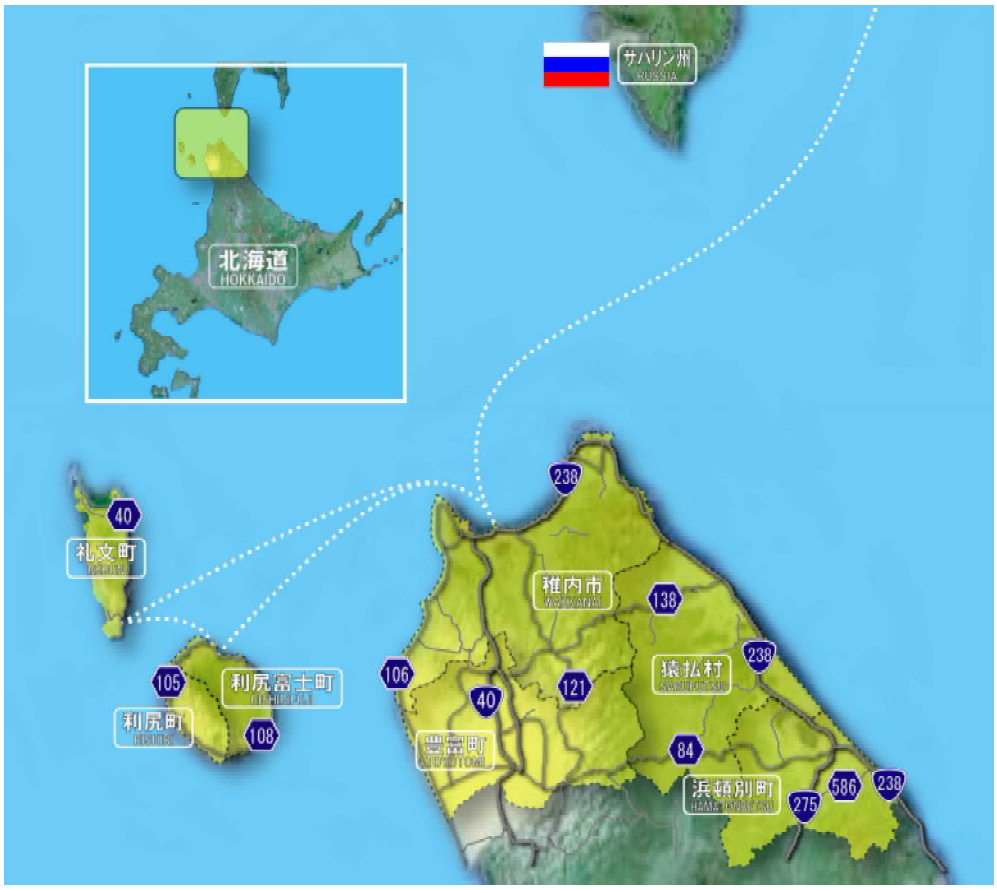
（1）当初計画における活動の達成状況 79
（2）平成 26 年度までのシーニックバイウェイ及びルートの変遷 80
（3）平成 26 年度までの特徴的な取組み 81
（4）宗谷シーニックバイウェイ　ルート運営代表者会議規約 87
（5）宗谷シーニックバイウェイのロゴ 89
（6）ルート運営活動計画の見直し経緯 90

1. 宗谷地域の位置及びエリア

宗谷シーニックバイウェイルートは、日本の最北端、宗谷総合振興局に位置し、稚内市、猿払村、豊富町、礼文町、利尻町、利尻富士町、浜頓別町の７市町村にまたがるエリアです。

主に関係する道路として、一般国道自動車専用道路である豊富パイパス、豊富町から稚内市に向かう一般国道 40 号、稚内市から猿払村に向かう一般国道 238 号、浜頓別町から音威子府に向かう国道 275 号のほか、道道や利尻島・礼文島を結ぶフェリー航路があります。

関係市町村	稚内市、猿払村、豊富町、礼文町、利尻町、利尻富士町、浜頓別町	
主に関係する道路 ※ルート内の全ての道路が活動の対象となるが、ここでは主な道路について記載する。	一般国道自動車専用道路	一般国道 40 号（豊富バイパス）
	国道	一般国道 40 号（稚内国道）
		一般国道 238 号
		一般国道 275 号
	道道	豊富浜頓別線（道道 84 号）
		稚内天塩線（道道 106 号）
		稚内幌延線（道道 121 号）
		豊富猿払線（道道 138 号）
		礼文島線（道道 40 号）
		利尻富士利尻線（道道 105 号）
		沓形仙法志鷲泊線（道道 108 号）
		豊牛下頓別停車場線（道道 586 号）
	その他	本ルートには一般道路以外にもフェリー航路等景観の良い場所が多数ある。これらの管理者や地域の関係者と連携を図り、地域の資源として保全・活用していくことを考える



2. ルートの概要

（１）ルートの名称とテーマ

宗谷の地域特性を踏まえ、ルートを象徴的に表し覚えやすいことを考慮し、ルートの名称及びテーマを次のように定めます。

ルートの名称 ： 宗谷シーニックバイウェイ

ルートのテーマ ： あたたかい最北のみち

誰も見ていないのに、咲いている花
誰もいない原野を、駆け抜ける風
誰の色にも染まっていない
海と空と大地

「自分だけの何か」を見つけたいなら
宗谷シーニックバイウェイ

初めてなのに、どこか懐かしい景色
最北に暮らす、心あたたかい人たち

（２）ルートストーリー

テーマに基づき、本ルートでは次のようなルートストーリーの実現を目指します。

Story1　日本の最北端の変化に富んだ四季が演出する雄大な**自然景観**を見る。

宗谷は日本の最北の地です。夏は山や丘陵が美しい緑色に染まります。冬になると白銀の世界になり、吹雪で前が見えないこともあります。また、晴れた日の夕日はとても美しくあなたの心にあたたかい何かを残してくれるでしょう。このように、自然の変化を感じることができるのもこの地域の特色です。

《夏の風景》

《冬の風景》

Story2　活気・魅力ある『宗谷の素晴らしさ』を伝えるべく、**より良い環境**づくりを。

宗谷で暮らす私たちは、ここでの暮らしの楽しさや厳しさ、あたたかさや知恵を伝えたいと考えています。また、宗谷の魅力を活かした活動を継続して行い、より良い環境づくりを実現します。

《コンブ漁》

《サイクリングロード》

Story3　北海道遺産の指定地や、『次世代に遺したい宝物』を**歴史探訪**する。

氷河時代の地形を残す宗谷丘陵、間宮林蔵が樺太（サハリン）へ渡った地、繰り返してはならない戦争時につくられた遺構、当時の高い技術を駆使しつくられた港や防波堤・・・。

ここにくると歴史の重みや先人の想いを感じることができるでしょう。

《宗谷丘陵》

《北防波堤ドーム》

Story4　この地でしか味わえない『宗谷らしさ』を**体験**する。

夏のトレッキング、冬のかんじき（スノーシュー）というように、同じ「歩く」ということを季節を変えて行うと全く異なる宗谷を感じることができると思います。他にも、犬ぞりや吹雪の体験など冬の厳しさを感じたり、親しむことができる体験を私たちは持っています。

《スノーシュー》

《トレッキング》

Story5　都会では決して味わえない『一番旨い海の幸・山の幸』を、食す。

漁業と酪農が地域の産業といえる宗谷では、美味しい海産物や宗谷黒牛などを食べることができます。ここにきたら、ここでとれたもの・ここで育まれたものを食べてください。「地産地消」は、地域が地域らしさを保つことを応援する事でもあります。

《ウニ》

《宗谷黒牛》

Story6　宗谷の厳しい自然と共に暮らす、動植物や人々とのふれあいを感じる。

利尻島や礼文島では、北海道では唯一と言って良いと思われる、ヒグマやマムシなどの危険動物の心配なく、海抜 0mからの登山・トレッキングができます。その中では、多くの高山植物と出会うことができるでしょう。他にも冬になるとアザラシの来る港や、ウミネコのコロニーなどもあります。これらの地域では、ガイドや観察員がいて、動植物のことはもちろん、地域のことなどについても解説しています。

《ゴマフアザラシ》

《海藻おしば体験》

Story7　日本のてっぺんと花夢を結ぶ航路の中での**一期一会**がある。

「日本の最北」と言えば、多くの人は地図で見ると場所をわかってくれると思います。稚内から利尻島、礼文島へ向かう時、交通手段を「船」という靴に履き替えると、新しい旅の始まりを予感させてくれます。利尻・礼文へは船に乗らなくてはなりません。その旅の中で、ちょっとだけ勇気を出して、隣の人に声をかけてみて下さい。ここに暮らす人々のあたたかさにふれることができるでしょう。

《フェリー》

《礼文島 香深港》

（３）ルートの呼称

『宗谷シーニックバイウェイ』に属する個別のルート呼称を以下に示します。

（４）各ルートの概要

１）宗谷ウェルカムロード

宗谷ウェルカムロードは、稚内市の生活を支えている主要幹線道路であり、基幹産業の「酪農」「水産」「観光」を含めたライフライン的な道路です。

また、サハリン州では日本企業が参加する石油・天然ガス開発プロジェクトが進んでいます。サハリンと交流するための道路としても重要な道路になります。

宗谷ウェルカムロード

稚内公園
樺太島民慰霊碑氷雪の門
九人の乙女の碑
昭和天皇行幸啓記念碑
南極観測樺太犬訓練記念碑
樺太犬供養塔
開基百年記念塔
短歌の道
北方記念館
（4/29～10/3開館・月曜休館、6～9月は無休）
ゲストハウス氷雪
稚内西海岸
（原生植物6～8月）
稚内温泉「童夢」
（第1月曜休館・11～3月無休）
夕日が丘パーキング
稚内森林公園
稚内森林公園キャンプ場
（5/1～10/31OPEN）
北防波堤ドーム
（7月下旬～8月中旬
い～べやわっかない開催）
しおさいプロムナード
ポートサービスセンター
（月曜、祝日、12/31～1/5休館）
氷雪の広場（2月上旬）
雪合戦大会（2月中旬）
道の駅わっかない追加
（EVステーション）
稚泊航路記念碑
ミルクパーキング
道立宗谷ふれあい公園
道立宗谷ふれあい公園場
（5～10月OPEN）
スノーモービルランド
稚内市役所
大沼
稚内空港公園
ゲストハウストナカイ
（2/1～3月下旬OPEN
・2月第4土、日曜）
動物ふれあいランド
（4/29～9/30開園・月曜休園、夏休無休）
稚内市
WAKKANAI
抜海岬
大沼バードハウス
（3/25～11/25開館
5月上旬春の大沼白鳥まつり開催）
抜海岩
抜海原生花園
ゴマフアザラシ観測所
（野生ゴマフアザラシ群11～4月
11/1～3/31開館
12/31～1/3休館）
遊遊ファーム
言問の松
兜沼
サロベツファーム
兜沼公園
兜沼公園キャンプ場
（5/1～10/31OPEN）
兜沼公園オートキャンプ場
（5/1～10/31OPEN
8月兜沼サマーフェスティバル開催）
豊富町
TOYOTOMI
豊富バイパス（自動車専用道路）
宮の台展望台
254
238
106
40
510
1119
121
616
811
138
118
923
763
— 凡 例 —
空 港
道 道
観光・文化施設
キャンプ場
公 園
フェリーターミナル
国立公園・道立自然公園
体験施設
景 観
国 道
温 泉
史 跡

■特に優れた資源

《勇知の体験型農業》

☞ 最北の文化の発信基地であり、勇知芋など食料の産地としての役割を果たしています。また日本最北にある豊富バイパスへつながる国道として、吹雪の待避所としてこの地域ならではのパーキングシェルターなど安全な道路としての機能が満載した道路です。

☞ 都市住民が農村に滞在し、農作業体験（畑・酪農作業）や陶芸体験等地域ならではの体験をするとともに本当の農家のように素朴で温かな田舎の生活を実感する「ファーム・ステイ」を体験することができます。都市と農村の交流や農業を素材とする宗谷ならではの観光の形です。

《勇知の体験型農業》

2)宗谷周氷河ロード

宗谷周氷河ロードは、他地域に類をみない自然が創りだした景観が魅力です。周氷河とは、今から一万年前の氷河時代の末期にできたといわれる広陵を示します。

これらの広陵はとても日本離れした光景であり、北海道らしさ・『北海道』を物語る、次の世代に大切に引き継ぎたい財産として北海道遺産に認定されました。

日本最北端のこの地において、氷河時代の大自然が創り上げた『北海道』を満喫できるルートとして、近年、フットパスコースが整備されホタテ貝殻を敷設し、緑の大地、青い空、白い道として人気を博しています。

宗谷周氷河ロード

宗谷岬
間宮林蔵渡樺出向の地
宗谷岬灯台
宗谷岬平和公園
日本最北端の地の碑
(1/1初日の出インてっぺん開催)
宗谷岬音楽碑
間宮林蔵の立像
889
238
宗谷丘陵
宗谷丘陵フットパス
稚内市
WAKKANAI
ゲストハウスアルメニア
祈りの塔
旧海軍望楼
宗谷海域海軍戦没者慰霊碑
平和の碑
宮沢賢治文学碑
世界平和の鐘
子育て平和の鐘
あけぼの像
宗谷岬肉牛牧場

— 凡 例 —
空 港
道 道
観光・文化施設
キャンプ場
公 園
フェリーターミナル
国立公園・道立自然公園
体験施設
景 観
国 道
温 泉
史 跡

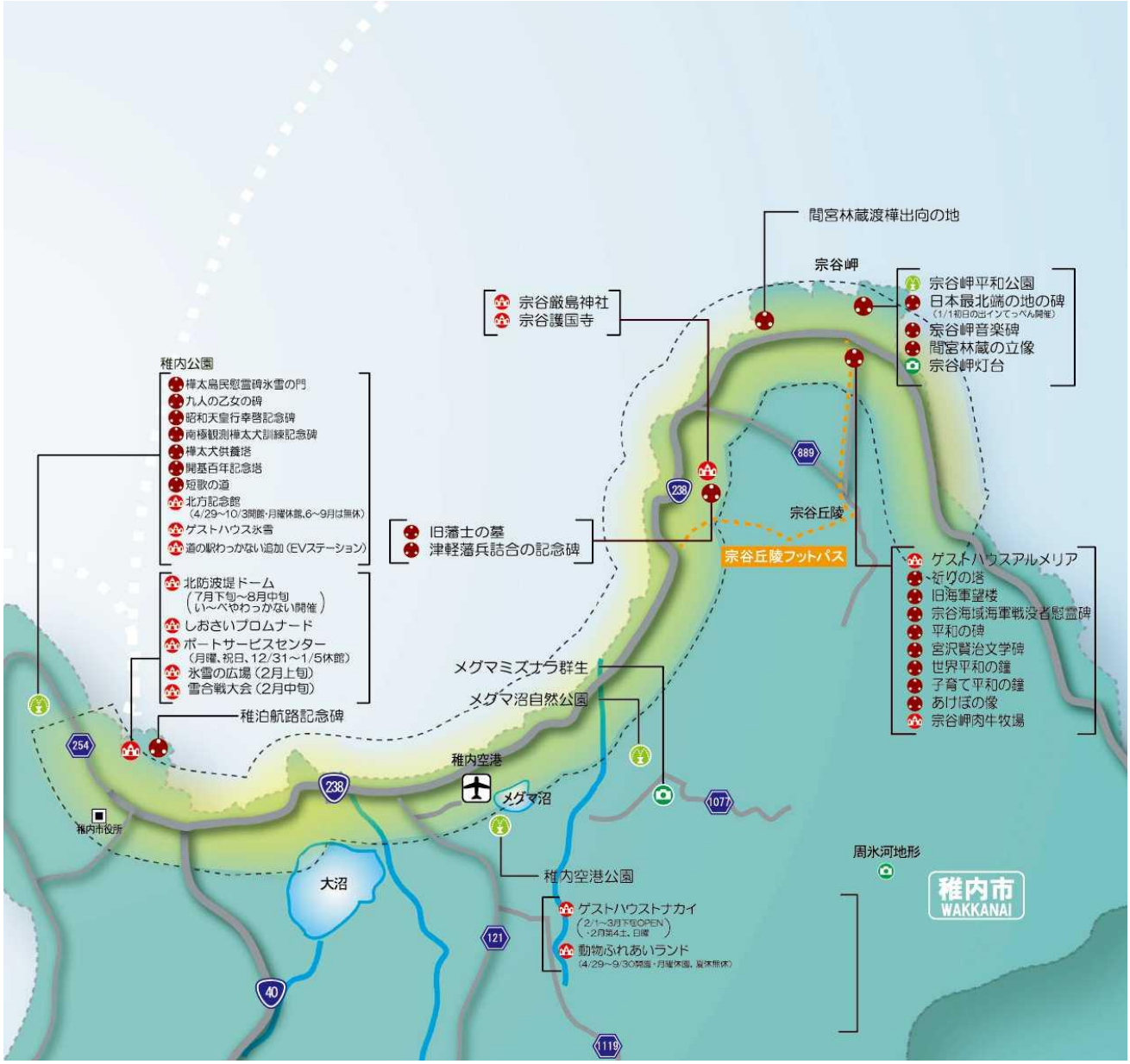
■宗谷丘陵の周氷河地形

- 宗谷岬の背後に広がる丘陵は、高さ 20mからせいぜい 200mで、稜線も谷も丸みを帯びています。おまけにどこも一面の笹とまばらな低木に覆われているだけなので、どこまで行っても同じように見えるのが、おかしいところです。V 字型の鋭い稜線や谷を見慣れた方の目には、これらの丘陵はとても日本離れした雄大な光景として映ることでしょう。
- 稚内の内陸部を特色づけるこれらの丘陵は、周氷河地形のひとつといわれております。
- 石の割れ目に入る小さな雨粒でも、凍結と融解を繰り返しているうちに、岩を割ることが出来ます。また、地表が凍結、融解の作用を繰り返し受けていると流土現象といい、土壌中で対流が起きてしまうのです。稜線の角が崩れ落ちて丸みを帯びるばかりでなく、地表部全体にわたって流土現象などがいっせいにはたらくので、険しい山地も、ついには平坦でなだらかな周氷河性の波状地になってしまうのです。
- この波状の丘陵ができたのは、今から約 1 万年前に終わった地球最後の氷河時期、ウルム氷河期末期といわれ、いわば氷河時代のなごりと云うこともできます。
- こうした地形は北海道の至るところで形成されたといいますが、開発などで破壊されたケースが多く、現在この美しい地形が最も顕著に見られるのは宗谷丘陵地区といえます。明治の中頃までは、丘陵全域にわたりうっそうとした森林が生い茂っていましたが、相次ぐ山火事のため、今では一面笹に覆われています。最近では、地元の観光バスやツアーのコースになる等新しい観光ルートとなっています。また、2004 年に北海道遺産として指定されています。

３)宗谷ヒストリーロード

宗谷ヒストリーロードは、登録を受けた２つの北海道遺産（宗谷丘陵・北防波堤ドーム）をベースに宗谷の開拓・間宮林蔵を含めた宗谷の歴史を垣間見ることができるルートです。

宗谷ヒストリーロード


間宮林蔵渡樺出向の地
宗谷岬
宗谷岬平和公園
日本最北端の地の碑
（1/1初日の出イントてっぺん開催）
宗谷岬音楽碑
間宮林蔵の立像
宗谷岬灯台
宗谷厳島神社
宗谷護国寺
稚内公園
樺太島民慰霊碑氷雪の門
九人の乙女の碑
昭和天皇行幸啓記念碑
南極観測樺太犬訓練記念碑
樺太犬供養塔
開基百年記念塔
短歌の道
北方記念館
（4/29～10/3開館・月曜休館、6～9月は無休）
ゲストハウス氷雪
道の駅わっかない追加（EVステーション）
北防波堤ドーム
（7月下旬～8月中旬
い～ぺやわっかない開催）
しおさいプロムナード
ボートサービスセンター
（月曜、祝日、12/31～1/5休館）
氷雪の広場（2月上旬）
雪合戦大会（2月中旬）
稚泊航路記念碑
旧藩士の墓
津軽藩兵詰合の記念碑
宗谷丘陵
宗谷丘陵フットパス
ゲストハウスアルメリア
祈りの塔
旧海軍望楼
宗谷海域海軍戦没者慰霊碑
平和の碑
宮沢賢治文学碑
世界平和の鐘
子育て平和の鐘
あけぼの像
宗谷岬肉牛牧場
メグマミズナラ群生
メグマ沼自然公園
稚内空港
メグマ沼
稚内市役所
大沼
稚内空港公園
ゲストハウストナカイ
（2/1～3月下旬OPEN
・2月第4土、日曜）
動物ふれあいランド
（4/29～9/30開園・月曜休園、冬休無休）
周氷河地形
稚内市
WAKKANAI
254
238
889
1077
121
40
1119

― 凡 例 ―
空 港
道 道
観光・文化施設
キャンプ場
公 園
フェリーターミナル
国立公園・道立自然公園
体験施設
景 観
国 道
温 泉
史 跡

■特に優れた資源

《宗谷丘陵の周氷河地形》

☞ 宗谷岬の背後に広がる丘陵は、高さ 20mから 200mの稜線や谷も丸みを帯び一面の笹とまばらな低木に覆われています。これらの丘陵は、周氷河地形のひとつの流土現象で、険しい山地も、平坦でなだらかな周氷河性の波状地になってしまいます。波状の丘陵ができたのは、今から約 1 万年前に終わった地球最後の氷河時期、ウルム氷河期末期といわれ、いわば氷河時代のなごりと言われています。2004 年に北海道遺産として指定さました。

《宗谷丘陵の周氷河地形》

《日本最北端の地の碑》

☞ 北緯 45 度 31 分 22 秒に位置しており国道 238 号に沿って駐車帯やはまなす花壇などが整備され、絶好の記念撮影ポイントとなっています。

《日本最北端の地の碑》

《北防波堤ドーム》

☞ 設計者は北海道大学を卒業して 3 年目、北海道庁の技師として稚内築港事務所に赴任してきた当時 26 歳であった土谷実氏です。北埠頭が旧樺太航路の発着場として使われていたとき、ここに通じる道路や鉄道へ波の飛沫がかかるのを防ぐ目的で、昭和６年から昭和 11 年にかけ建設された防波堤です。樺太へと渡る人々で賑った頃のシンボルでもあり、古代ローマ建築物を思わせる太い円柱となだらかな曲線を描いた回廊は、世界でも類のない建築物として内外の注目をあびています。全面改修工事が行われ昭和 55 年にその独特の景観がよみがえり、高さ 13.6m、柱の内側から壁までが 8m、総延長 427m、柱の総数 70 本、半アーチ式の構造形式です。2001 年に北海道遺産として指定されています。

《北防波堤ドーム》

《稚内公園》

☞ 稚内公園には、360 度の大パノラマを体験できる百年記念塔、樺太関係や南極で活躍した犬たちのモニュメントがあり、稚内港や市街地を望める高台です。北方記念館・氷雪の門など歴史的な資料も多く点在しています。

《稚内公園》

《大沼》

☞ 厳しい気象が育んできた貴重な自然に出会える広大なエリアには、道立ふれあい公園、野鳥観察館、ゴルフ場、冬の体験施設などがあります また、野球場、モトクロス場、射撃場、公認のボートコースなどのスポーツ施設も整備されています。

《大沼》

■特徴ある地域・文化資源

《旧藩士の墓》

☞ 江戸幕府が外口から、今の北海道やサハリンを護るため、津軽藩士・会津藩士を派遣し、厳冬のため、多数の越冬死者を出したといいます。宗谷公園に安置されている墓は、近くの海岸に点在していたものを、明治時代に村民の手により１カ所に集め、さらに昭和 32 年現在地に移されたものです。以来、地元では毎年慰霊祭をとり行い、この地で果てた旧藩士の冥福を祈っています。

《旧藩士の墓》

《津軽藩兵詰合の記念碑》

☞ 幕府が再び北辺の地で越冬を命じた時には、水腫病の予防薬として和蘭コーヒー豆が配給されたという記述が残されています。この碑は、コーヒーを飲むことができずに亡くなっていった藩士たちを悼み、その後、薬としてコーヒーを大切に飲んだであろう先人たちに思いを馳せ、津軽藩士の故郷である弘前市の有志が中心となり建立したもので、平成 4 年（1992 年）９月に除幕されました。

《津軽藩兵詰合の記念碑》

《宗谷厳島神社》

☞ 宗谷厳島神社は、天明２年（1782 年）奉納と記された「鰐口」が現存するところから一応、天明元年（1781 年）に建立されたものと考えられます。祭神は市杵島姫命（いつくしまひめのみこと）という水の女神です。現在の社殿は明治 3 年（1870 年）、開拓使・竹田氏により修築されたものです。

《宗谷厳島神社》

《宗谷護国寺》

☞ 元禄以来、徳川幕府は新しい寺院の建立を禁じましたが、享和２年（1802 年）蝦夷地（北海道）に５つだけ寺を建立することを許可し、北方警備のためこの地に秋田の藩士たちが駐屯することになったおり、蝦夷地に先に建立されていた有珠善光寺の住職が、安政３年（1856 年）に宗谷場所の協力を得て建立した幕府直轄の浄土宗のお寺でした。

《宗谷護国寺》

《宮沢賢治文学碑》

☞ 『はだれに暗く緑する宗谷岬のたゞずみと北はま蒼に唾るサガレン島の東尾や』宗谷岬公園の一角に宮沢賢治文学碑「宗谷（二）」の一説を記した文学碑があります。「宗谷（一）」と「宗谷（二）」は大正 12 年８月、賢治が稚内より連絡船の客となり、大泊に至る間に作詞したものといわれています。

《宮沢賢治文学碑》

《旧海軍望楼》

☞ 帝政ロシアとの国交が悪化し始めた明治 35 年に、国境の備えとして旧帝国海軍が建設したもので、当時最強といわれたロシアのバルチック艦隊が、宗谷海峡、津軽海峡、東シナ海のどこかを通過し、ウラジオストクに集結するかを察知することは、戦略上極めて重大であったことから、同望楼の海上監視にも、任務の重要性が課せられました。稚内では明治年代の建築物で現存する唯一のもので、昭和 43 年 12 月、市の有形文化財に指定されました。

《旧海軍望楼》

《間宮林蔵の立像》

☞ 世界地図にただひとつ日本人の名を残した探検家・間宮林蔵は、安永 9 年、現在の伊奈町に産声をあげました。像は、林蔵の生誕 200 年にあたる昭和 55 年 7 月に、彼の偉業を顕彰し、時代を担う青少年に、世界へ羽ばたく夢と勇気を培ってもらおうとの願いから建立されたものです。像は、実物より 2 割ほど大きい、高さ 2 メートルのブロンズ像です。

《間宮林蔵の立像》

《間宮林蔵渡樺出港の地》

☞ 文化 5 年 4 月 13 日、幕府から命を受けた林蔵は、松前奉行支配調役・松田伝十郎とともに、第 1 次樺太探検に出発しました。このとき、林蔵は郷里から持ってきた墓石を海岸に建て、探検への覚悟のほどを示したといわれています。同年 7 月 13 日、第 2 次樺太探検のため、アイヌの船に乗って単身で出発し、トンナイ（旧真岡付近）で冬を越し、翌年 5 月に樺太を北上、樺太北端のナニオーまで踏査して樺太が島であることを確認しました。この時の探検地図が、後にシーボルトによって紹介され、樺太北部と大陸の間が「間宮海峡」と命名されたのです。

《間宮林蔵渡樺出港の地》

《九人の乙女の碑》

☞ 碑文～戦いは終わった。それから 5 日、昭和 20 年 8 月 20 日ソ連軍が樺太真岡上陸を開始しようとした。その時突如、日本軍との間に戦いが始まった。戦火と化した真岡の町、その中で交換台に向かった九人の乙女等は、死を以って己の職場を守った。窓越しに見る砲弾のさく裂、刻々迫る身の危険、いまはこれまでと死の交換台に向かい『みなさん、これが最後です。さようなら、さようなら……』の言葉を残して静かに青酸カリをのみ、夢多き若き尊き花の命を絶ち職に殉じた。戦争は再びくりかえすまじ。平和の祈りをこめて尊き九人の霊を慰む。

《九人の乙女の碑》

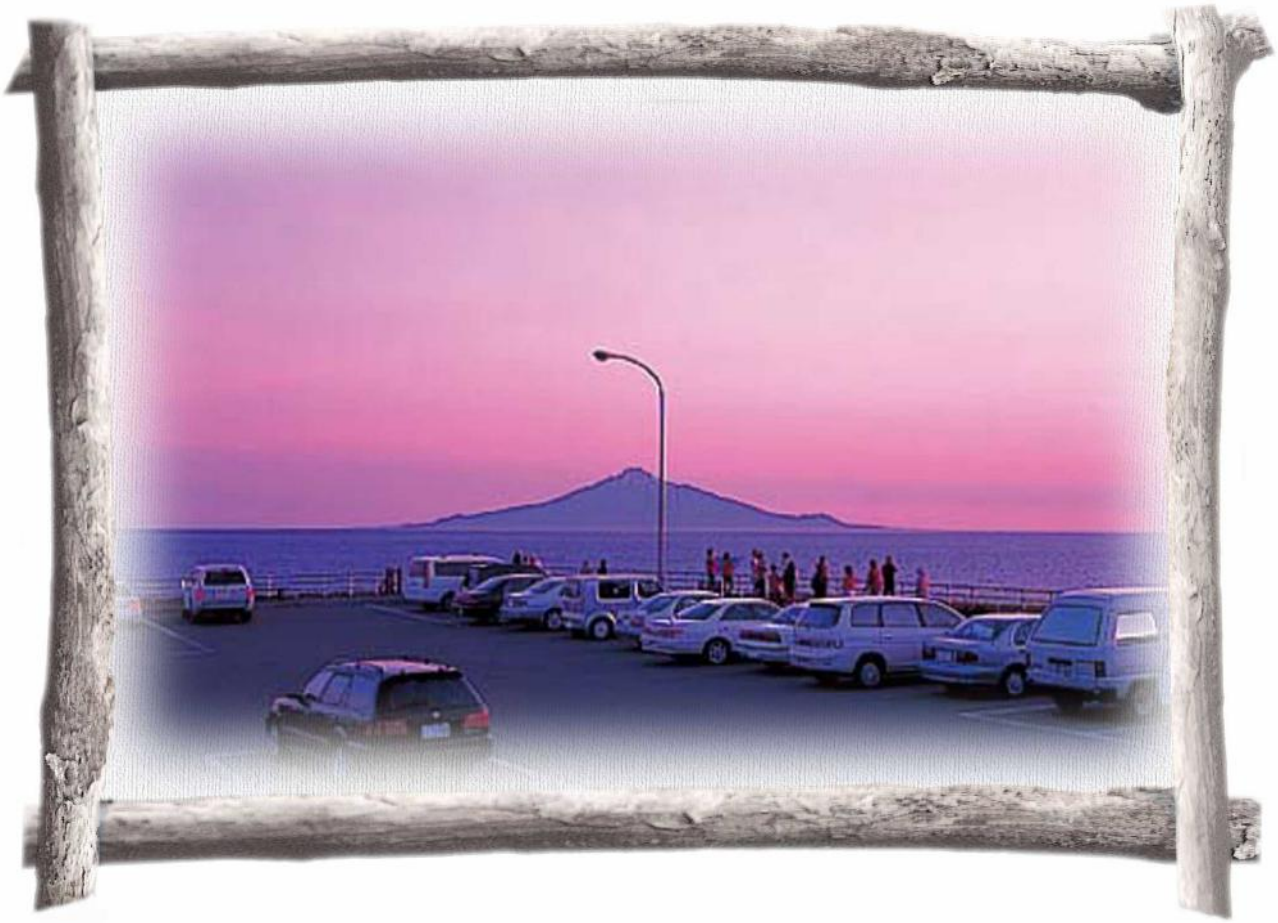
《稚泊航路記念碑》

《稚泊航路記念碑》

☞ 大正 12 年、鉄道省により稚内～大泊間に連絡航路が開設されました。以後終戦の昭和 20 年 8 月に閉鎖されるまでの 22 年間の業績を讃えるため、昭和 45 年 11 月に建立された記念碑です。「稚泊

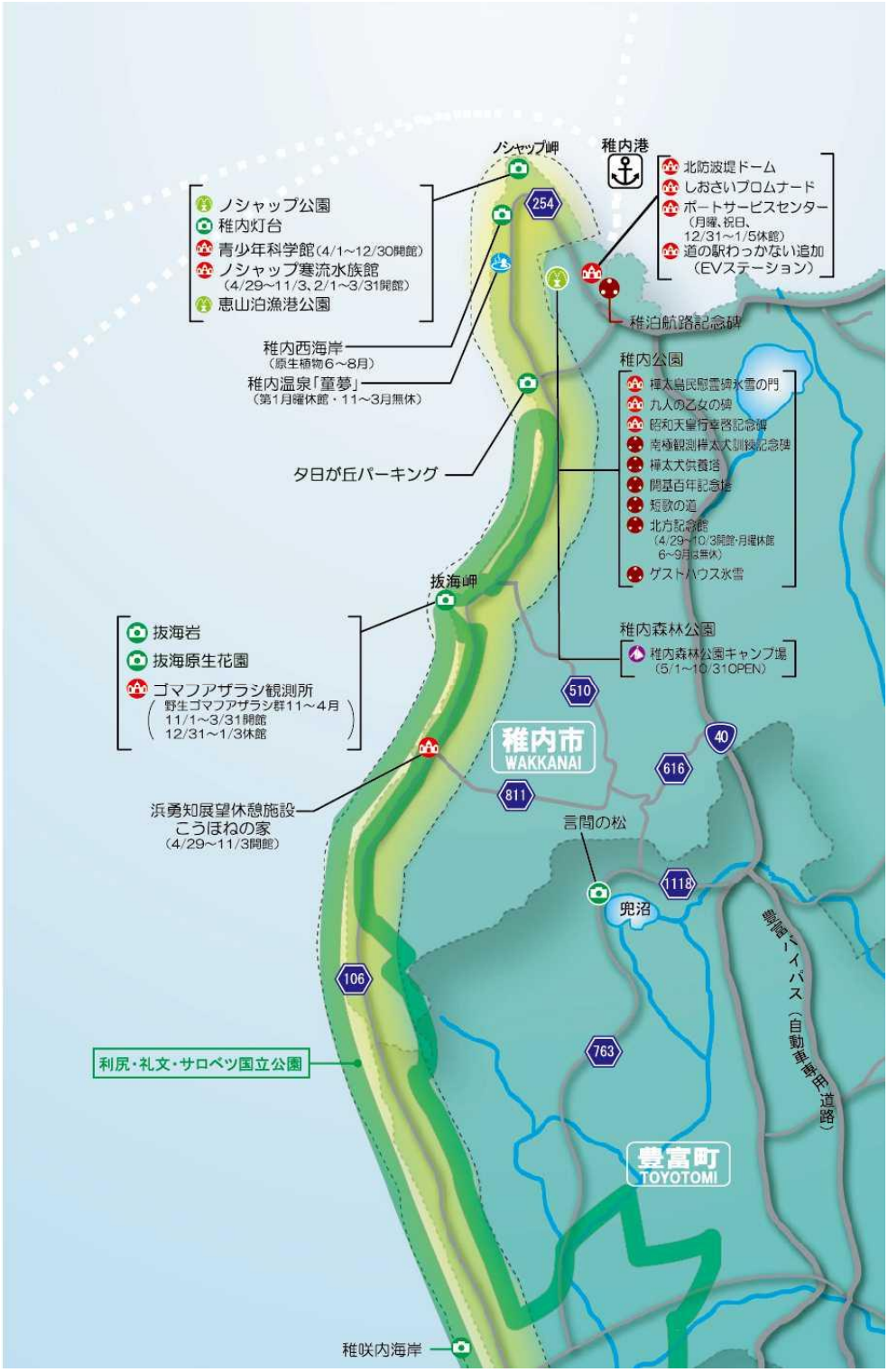
連絡航路」22 年の歴史の中で行き来した乗客は 284 万人にものぼります。

4)宗谷サンセットロード



宗谷サンセットロードは、日本海側に沿って天塩から最北の街稚内（ノシャップ岬）までを結ぶ 68ｋｍの道道です。この日本海にぽっかり浮かんで見える浮島（利尻・礼文）に沈む夕日は、どこから見ても時間を忘れさせてくれる絶景ルートです。

宗谷サンセットロード



— 凡 例 —

空 港	道 道	観光・文化施設	キャンプ場	公 園
フェリーターミナル	国立公園・道立自然公園	体験施設	景 観	
国 道		温 泉	史 跡	

■特に優れた資源

《浜勇知展望休憩施設（こうほねの家）》

☞ 屋上からは、日本海の向こうにそびえ立つ利尻富士や美しい夕日が見られる絶好のビューポイントです。初夏から夏にかけては「コウホネ」と呼ばれるスイレンに似た花が咲くほか、沼周辺にもハマナスやエゾカンゾウをはじめとする原生花が咲き誇ります。休憩施設の横には、テレビドラマのロケのためにこの地を訪れた俳優・森繁久弥氏の歌碑も建っています。

《こうほねの家》

《抜海漁港（ゴマフアザラシの越冬地）》

☞ 毎年、冬になると流氷に乗ってやってくるゴマフアザラシたちの休息地となっているのが、抜海港です。浅瀬になった砂地の上や消波ブロックの上にのんびりと寝転がっている姿を見ることができます。11 月から 4 月にかけて多いとき 200 頭ほどのゴマフアザラシを見ることができ、3 月ころには真っ白な生まれたばかりのアザラシも見ることができます。

《ゴマフアザラシの越冬地》

《夕日が丘パーキング》

☞ ノシャップ岬・こうほねの家同様、利尻島、礼文島、そして夕日の名所として人気の場所です。道道稚内天塩線沿いにあり、トイレも完備したパーキングエリアにもなっています。

《夕日が丘パーキング》

《ノシャップ岬》

☞ ノシャップとは、「岬がアゴのように突き出たところ」「波のくだける場所」というアイヌ語、「ノッ・シャム」が語源となっています。眼前には秀峰・利尻富士と花の浮島・礼文島、サハリンの島影をも一望することができ、夕暮れ時には地平線に沈む夕日が感動的な情景をつくりだしています。また 7～8 月頃の早朝、周辺の海岸では夏の風物詩である、利尻昆布の昆布採りの風景を見ることができます。

《ノシャップ岬》

《ノシャップ寒流水族館》

☞ 稚内灯台のすぐそばに建つこの水族館は、開道百年、稚内市開基 90 年、市制施行 20 年を記念し、昭和 43 年(1968)7 月に開館され、日本で 100 番目にあたる水族館です。回遊水槽では、ホッケ、ソイの仲間、カレイの仲間等北方系の海の魚とともに、〝幻の魚〟イトウの泳ぐ姿を 360 度見渡すことができます。また〝北の海のアイドル〟フウセンウオのフ化にも成功し、新しい魚の飼育、展示にも挑戦しており、他にも、愛らしいゴマフアザラシやフンボルトペンギン等に会うことができます。

《ノシャップ寒流水族館》

《稚咲内海岸》

☞ 日本海を望む穏やかな海岸は、悠々とした秀峰・利尻富士を一望できるのが魅力。さわやかな潮風に揺れるハマナスや橙色をしたエゾスカシユリが咲き誇ります。ここから北へ向かう稚内までは約 60km もの砂浜が続く、勇壮とした景観。海岸とサロベツ原野の間には特殊な景観の原始砂丘林が生い茂ります。海岸線に夕日が沈む頃、勇壮な利尻富士も見事な茜色のシルエットに。その美しさは、地元の人のみならず多くの観光客の心を魅了します。海岸線を走る日本海オロロンラインは、一直線にのびる道路沿いに、これら絶景を望める最高のドライブコースとして人気。空だけでなく、心をも染めるロマンティックなひとときを。

《稚咲内海岸》

5）サロベツナチュラルロード

サロベツナチュラルロードは、国立公園「サロベツ原生花園」を拠点に、様々な動植物や鳥類・虫類が多く生息するポイントです。野生の宝庫として有名で、植物に優しく、鳥や動物たちを育み、私たちにやすらぎを与えてくれます。サロベツの大自然を満喫することができるルートです。

サロベツナチュラルロード

■特に優れた資源

《サロベツ原生花園（サロベツ原野）》

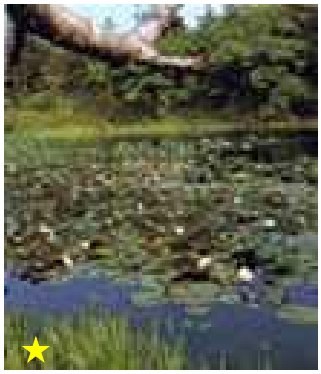
☞ 東西５～８km・南北 27km にわたって広がり、面積は約２万 ha、その 70%が泥炭地となっており、釧路湿原と並ぶ日本最大級の湿原です。「利尻・礼文・サロベツ国立公園」に指定されており、2005 年 11 月「ラムサール条約」の登録湿地となりました。初夏から秋にかけて、ツルコケモモやヒメシャクナゲ・ワタスゲ・エゾカンゾウ・エゾリンドウなど、約 100 種にも及ぶ湿原の可憐な花々が季節ごとに咲き誇ります。また、オジロワシやアカエリカイツブリなどの様々な野鳥、卵胎生のめずらしいコモチカナヘビや世界最小の哺乳類トガリネズミに巡り会えるかもしれないなど、北海道屈指の雄大な自然景観・動植物とのふれあいに魅せられ、訪れた旅人をやさしく包みこむことでしょう。

《サロベツ原生花園》

■特徴ある景観資源

《ひめ沼》

☞ サロベツ原生花園から稚咲内海岸へ向かう砂丘林内にたくさんの沼が点在していますが、道路近くにあるこの「ひめ沼」は、その場所柄、人が訪れやすく、花が咲き、林に囲まれた静かな沼は「ひめ沼」という呼び名にふさわしいたたずまいを見せてくれます。



《ひめ沼》

《兜沼公園（キャンプ場＆オートキャンプ場）》

☞ 兜沼は、豊富市街から北へ 20km ほどのところにある小さな沼でその姿が「兜」に似ていることから名付けられました。周囲７km は森林に囲まれ、ありのままの自然を生かしたキャンプ場とオートキャンプ場が整備された公園です。沼の周りを１週できるサイクリングロードもあるアウトドアスポットです。

《兜沼公園》

■特徴ある観光・参加体験型資源

《公園内売店＆休憩所・サロベツファーム》

☞ サロベツ原野と利尻富士の眺望できる旧芦川小学校（82 年閉校）を利用して手作りハム・ソーセージを製造販売しているところです。狭いですけど、奥に軽い食事ができる場所があります。田舎の家庭の台所で食べているような感じで、従業員の方とのふれあいもあります。

《サロベツファーム》

《豊富牛乳公社》

☞ 北海道の豊富町では、第三セクターで豊富牛乳公社を設立して、1 日 50 トン（1 リットルパックで 5 万本）の牛乳を生産しています。現在、町内のほか、コンビニエンスストアのセイコーマートのプライベートブランドとして、北海道をはじめ茨城県や埼玉など全国 1,160 店舗へ豊富牛乳を配送しています。

《豊富牛乳》

《豊富自然公園》

☞ 豊富市街の東部にあり、入り口正面に見える丘には、タイヤで書かれた「とよとみ」のシンボル文字があります。日中は、豊かな新緑に包まれ、公園を彩る花々やせせらきの滝・水車小屋などと、子供たちの笑い声が重なり合い、訪れる人の心を和やかにさせます。散策途中の憩いのスポットとして気軽に足を運んでみてください。特にパークゴルフ（有料）とゲートボールが人気です。　平和祈念塔／宇宙空間 79（動く彫刻）

《豊富自然公園》

《サロベツ湿原センター》

☞ 泥炭採掘工場跡地において、国立公園の案内解説や情報提供のための新たな利用施設の整備が行われ、平成 23 年 4 月 28 日に「サロベツ湿原センター」が 新しい利用拠点として 誕生しました。サロベツ湿原のエントランス施設として 国立公園の見どころや自然について紹介するほか、「人と自然の共生」の観点からサロベツ湿原の自然・人文・歴史などについてわかりやすく解説し、自然再生の目的や取組状況など、様々な情報を提供する施設です。

《サロベツ湿原センター》

■特徴ある地域・文化資源

《言問の松》

☞ 樹齢 1200 年、高さ 14m の「オンコの木」、“言問の松” という伝承の老木があります。この木は平安時代からこの兜沼にあると言われており、切り倒そうとすると病にかかったり怪我をしたりしたため、それ以降は神のお告げがあるとしてこの土地の守り神となっています。

《言問の松》

《旧兜沼郵便局》

☞ 開拓初期には、入植者にとっては「故郷」からの便りは無上の慰めであったであろう。また、入植者からの便りを待つ「故郷」の人も多かったに違いない。豊富町における郵便業務は、明治４２年の兜沼設置に始まる。その初代から３代までの局長を務めたのが「梅村家」である。現在、郵便局は「兜沼郷土資料室」として利用されている。

《旧兜沼郵便局》

《万願山》

☞ 兜沼南西丘陵地にある「お社」。昭和初期、「九万坊大権現」を祀ったのが始まりとされる。現在は他に「竜神様」「水神様」「三十三観音様」「弘法大師」など沢山の神仏が祀られている。

《万願山表道脇の観音像》

６）サロベツリフレッシュロード

サロベツリフレッシュロードは、雄大な自然景観・広大な牧場放牧されている乳牛等、のどかな風景に心を癒されます。ドライブの楽しみに歴史ある効能豊かな北の名湯に浸かり、のんびりと時間を過ごす事ができ、心身を爽快にし、疲れを一掃することができるルートです。

サロベツリフレッシュロード

■特に優れた資源

《豊富温泉（日本さいほくの温泉郷）》

☞ 豊富温泉は、大正の末期に拓かれた歴史ある温泉です。そもそも石油の試掘を行っていた時に、地下約 800～900m の地点から「天然ガスと温泉」が噴出したのがその始まりです。お湯は、わずかに黄濁していて、湯舟には油膜が浮かび、ほのかにただよう「石油の香り」が特徴です。長時間入浴していても湯疲れしない柔らかな肌ざわりが人気で保温効果もバツグンです。特に女性からは、お肌にやさしい「美肌の湯」として注目されております。また、昔からやけどや切り傷によく効くと評判で、最近ではアトピーなどの皮膚疾患でお悩みの方々にご好評頂いております。温泉街には「元湯」と親しまれている町営日帰り入浴施設「ふれあいセンター」を中心に 10 軒ほどの宿泊（入浴）施設があります。

《豊富温泉》

《大規模草地牧場》

☞ 面積約 1400ha の大規模草地牧場は、日本でもかなり広大な規模として有名です。未開の原野を牧草地として造成した広大な丘陵地帯には、約 1500 頭の乳牛が放牧されています。牧場の入り口には、昭和 43 年９月に天皇・皇后両陛下が牧場の開発状況を視察に見えられた際の「行幸記念碑」が建っています。

《大規模草地牧場》

《宮ノ台展望台（徳満展望台）》

☞ 市街地から北に約６km の小高い山の上にある展望台。当初は所在地の地名である徳満展望台と称されておりましたが、昭和 38 年に義宮殿下（現常陸宮殿下）が視察された事から「宮ノ台展望台」と改名しました。眼下に広がるサロベツ原野の眺めはまさに壮観で、地平線から大地の匂いが届きます。なだらかな丘陵地帯の向こうに利尻富士も望めるパノラマビューの感動的な景色を体感してください。

《宮ノ台展望台（徳満展望台）》

■特徴ある観光・参加体験型資源

《工房レティエ（手作りチーズ・アイスクリーム）》

☞ ５戸の農家が集まりアグリネット宗谷有限会社を設立しました。４年間かけた農家チーズネットワークのボランティア活動の理念を原点に、生乳の生産から加工・製造・販売までを手がけるという一貫した生産システムへの取組みです。ここ宗谷地方の起伏に富んだ丘綾地帯でたくましく健康に育った牛から搾られた新鮮なお乳は大自然の上質の贈り物。緑の大地が白いミルクに変わり、そこからまた新しい命の糧が生まれていく…。農家産の素朴で生活の香りを詰め込んだ手作りの品々を味わってみませんか。　体験　要予約

《工房レティエ》

《サロベツカントリークラブ》

☞ 豊富温泉の夏の楽しみはゴルフです。サロベツカントリークラブは利尻山を望む雄大な風景が魅力の 18 ホール、パー72 のゴルフコースです。プレイ後に食事ができるクラブハウスも完備されています。

《サロベツカントリークラブ》

《豊富温泉スキー場》

☞ 温泉街の背後には豊富温泉スキー場があり、ナイター整備やリフトが整備され初心者やファミリーにお勧めのゲレンデです。一年を通してスポーツと温泉が満喫できます。

《豊富温泉スキー場》

《湯快宿》

☞ 湯治客用宿泊施設の「湯快宿（ゆかいじゅく）」は低料金で利用できる自炊型の宿泊所です。ふれあいセンターの湯治客用浴場を利用しながら温泉湯治に勤める湯治客は道内はもとより全国各地から訪れています。効果的名温泉の利用方法は湯快宿の親切な管理人さんが指導してくれるので、安心してご利用いただけます。

《湯快宿》

《サロベツ 100 マイルロード》

☞ 大規模草地牧場 周回特設コース(1 周 20㎞) を全国各地からのアマチュア自転車選手が出場 最長 100 マイルのタイムトライアルレース雄大な牧場風景を背に駆け抜ける姿はヨーロッパのレースのよう。レース後は 豊富温泉でごゆっくり おつくろぎ下さい。

《サロベツ 100 マイルロード》

■特徴ある地域・文化資源

《豊富温泉自然観察館》

☞ 木の香りに包まれたログハウス風の建物で、静かな環境の中、サロ
サロベツ原野に咲く花々・生息する動物たち・鳥たちの資料や豊
が展示されています。中でも必見は、サロベツ原野の地層断面模
史を学べるビデオも鑑賞できます。

《豊富温泉自然観察館》

7)オホーツクホタテロード

オホーツクホタテロードは、紺碧のオホーツク海と広大な緑の台地に挟まれた国道238号を走り抜ける、北の大地に相応しい景観を誇っています。北の海から吹き寄せる風と北の大地から吹き降ろす風の中、資源豊かな海で繰り広げられる質量ともに日本一のホタテ漁、栄養価の高い牧草を食む乳牛から生み出される高品質の牛乳など、食料生産基地としての確固たる地位を占めるエリアとなっています。

オホーツクホタテロード

■特に優れた資源

☞ 「天然ほたて」をはじめとしてオホーツク海の豊かな幸、広大な大地で伸び伸びと育まれたこだわりの逸品がたくさんあります。旬の香りがいっぱいで、お土産や贈り物にも大変好評です。

《ホタテ》

《ホタテ》

☞ 日本一の水揚げを誇る天然ホタテ貝は、５年かけてオホーツク海で育まれ、身の締まった美味しいホタテになります。身は厚く、コリコリとした食感で、「美味しい」と絶賛する逸品です。お刺身をはじめ、バター焼きや塩ふり焼・フライにしても美味しいです。

《鮭・鱒》

☞ 北海道では、サケのことを「アキアジ」と呼び、秋の魚として猿払でも９月から漁が行なわれます。サケの中でも晩秋にのみ獲れるあぶらののった上等のサケ「メジカ」は、高級品として知られています。

《毛がに》

《毛がに》

☞ これぞ北海道の味！北オホーツクで育った身の締まった毛がには、猿払では３月から６月に水揚げされ、ゆでたてを食べるのが最もぜいたくな味わい方です。

《バター･アイスクリーム》

☞ 「牛乳と肉の館」では、バター、アイスクリームが作られています。原料となっている生乳については、近くの農家より直接仕入れており生産者がはっきりしています。また、体験実習室では、アイスクリーム、バター、ソーセージ作りが体験できます。 ただし、体験実習は事前に予約（２週間前）が必要となります。

■特徴ある観光・参加体験型資源

《道の駅　さるふつ公園》

☞ 国道２３８号沿い、サハリンの島影を望む雄大なオホーツク海と牛達の楽園となっている広大な村営牧場に囲まれ「さるふつ公園」があります。公園全体が「道の駅」に指定され、さまざまな施設が整備されており、村民の憩いの場であるとともに村の観光の拠点となっています。

《道の駅　さるふつ公園》

道の駅さるふつ公園にある観光・参加体験型施設

○ホテルさるふつ　ふるさとの家
○さるふつ公園キャンプ場（バンガロー3 棟）
○公衆浴場「さるふつ憩いの湯」（日帰り温泉）
○サイクリングターミナル（公園周回ﾛｰﾄﾞ 4.8 km）
○パークゴルフ場（18H）
○歴史モニュメント（インディギルカ号遭難者慰霊碑、いさりの碑、風雪の塔、農業資料館）
○牛乳（ちち）と肉の館
　猿払産牛乳を使用したアイスクリーム・バターの製造・販売と、体験実習。

■特徴ある地域・文化資源

《樺太電気通信ゆかりの地》

☞ 浜猿払にあって昭和９年南樺太間に電話ラインで結ぶ海底ケーブルが開通し。北海道と樺太の産業経済を結ぶ連絡機関として重要な役割を果たしていました。その記念碑がここにはあります。

《樺太電気通信ゆかりの地》

8）サルフツビレッジロード

やや内陸部を走る国道 238 号沿いに広がる牧草地は、酪農基地としての生産基盤の形成と、国土保全機能を果たし、また、国道と並行して走る海岸沿いの村道・農道は、沿線に遮るもののない直線道路となり、海岸沿いは「エサヌカ原生花園」として春から秋まで多くの花々が咲き乱れ、高山性の植物群落を形成しています。

サルフツビレッジロード

■特徴ある景観資源

《ポロ沼》

☞ ポロ沼は浜猿払の猿払川河口近くになると見えてくる、とても大きな沼です。浜頓別のクッチャロ湖と同様ここも夕日の綺麗な所として見ごたえがあります。

《キモマ沼》

☞ 沼の周りは林で覆われ小さいが綺麗な沼であり、ガン・カモ類など一万羽あまりの水鳥が観察されるポイントです。

《猿払川河口～猿払川、エコベ川、カリベツ川》

☞ 幻の魚『イトウ』が釣れるので、週末には道内から釣り人が大勢やってきます。冬に全面凍結すると氷に穴をあけてチカ釣りが楽しめます。

《カムイト沼》

☞ アイヌ語で『神々の住む沼』という意味を持つ沼です。周囲を森林に囲まれた神秘的な沼で北オホーツク道立自然公園に指定されています。沼の一部に木道の遊歩道が整備されており、カヌーを持ち込んでの釣りも可能な沼です。

《王子の森》

☞ 王子の森は、猿払村浅茅野台地からオホーツク海岸にかけた湿原を中心とする学術的価値が高く貴重な自然地域です。王子製紙はこの地域を保全するとともに研究教育文化創造の場とし、当地域を一般に開放する事にしました。

主な生息植物：ヒメカイウ ハクサンチドリ ホロムイイチゴ

《ポロ沼》

《キモマ沼》

《カムイト沼》

《王子の森》

■特徴ある景観資源

《エサヌカ原生花園》

☞ 果てしなく続く直線、まったく手付かずの原野です。海岸から約 1km にわたって、海岸植生とそれに続く風衝植生が見られます。浜頓別のベニヤ原生花園と植生的に似ていますが、こちらの方が規模が大きく（600ha）、あまり人手が加わってないのが特徴です。

《エサヌカ原生花園》

《モケウニ沼》

☞ 周囲約 4km のモケウニ沼は、大小 3 つの沼が小川によって結ばれており、遊歩道も設けられています。沼の周りは、湿地性の植物が繁茂し、珍しい浮島も。ほとんど開発されていない地域のため、「北オホーツクの原風景が残っている」と、カメラマンも多く訪れる、猿払の知る人ぞ知るネイチャー･スポットです。

《モケウニ沼》

《浅茅野湿原》

☞ 浅茅野湿原は、6000 年前の縄文時代以降海退によって成立した海跡湖であるモケウニ沼、小沼、第一沼とその周辺が陸化して生じた湿地帯です。オホーツク海沿岸で最も規模の大きなミズゴケ群落アカエゾマツ湿地林が発達し学術的価値は高く貴重な湿原です。

■特徴ある観光･参加体験型資源

《ふれあいファーム　円丁（えんちょう）牧場》

☞ 日本最北端の地まで 30km という所で牛の乳を搾っています。生き物相手に四季の移ろいを感じながらの生活は、質素で厳しくもありますが、実に豊かで変化に富んでいます。都会の人たちに牧場をもっと身近に感じてほしいという夢を実現させるために、乗馬クラブ「タマの会」を作りました。馬や羊がすぐそばで悠然と草をはんでいる風景に触れ、語り合ってみませんか。

（酪農教育ﾌｧｰﾑ認証牧場）

《円丁牧場》

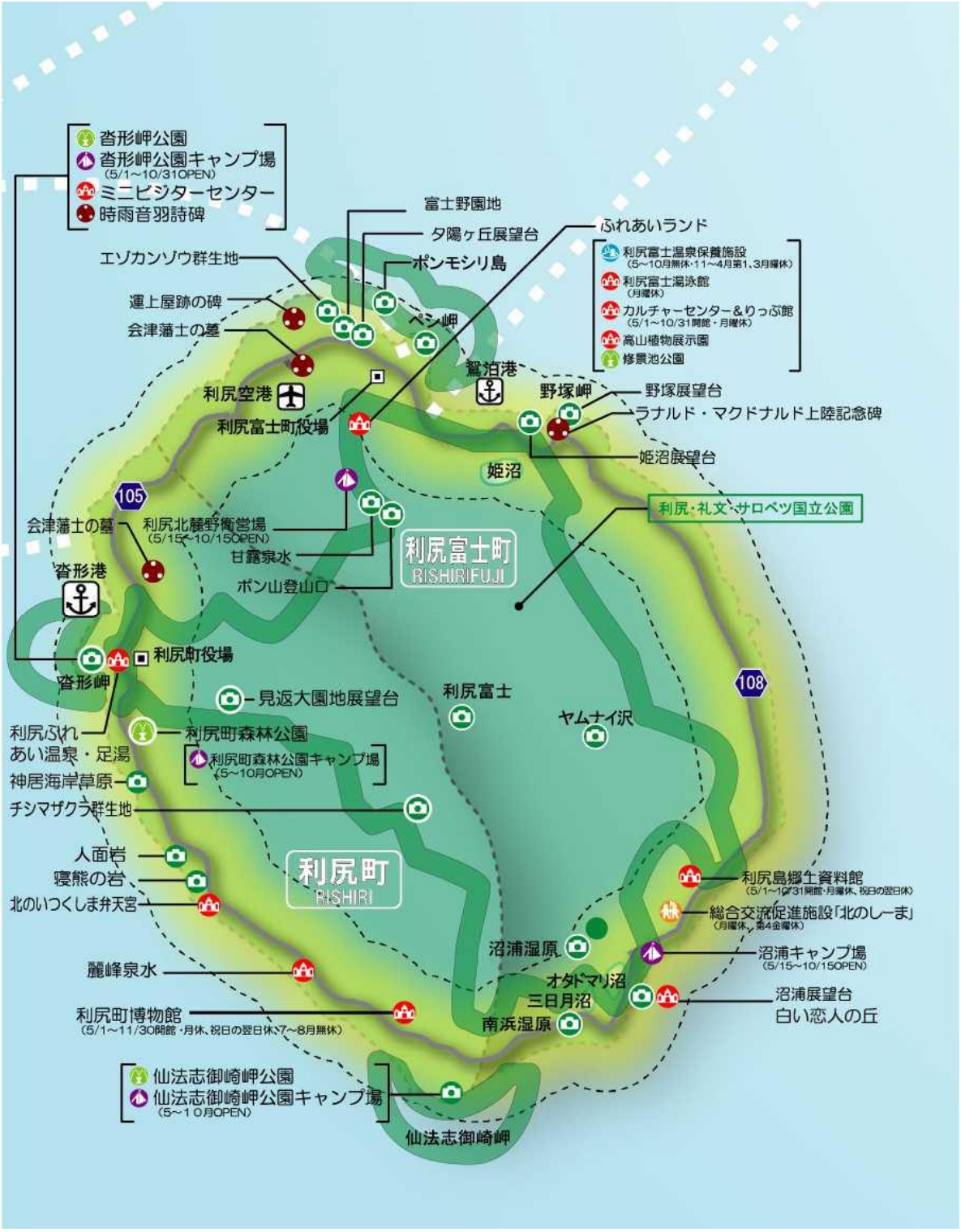
９)利尻ファンタスティックロード

利尻東海岸ファンタスティックロードは、日本海に浮かぶ利尻島内を周遊するルートです。

紺碧の海と共にルート上から望める秀峰利尻富士は、その姿を刻々と変えます。

まさに最北の大自然をまるごと独り占めできる感動的（ファンタスティック）なルートです。

利尻ファンタスティックロード



■特に優れた資源

《エゾカンゾウ群生》

☞ ６月中旬から７月中旬にかけて富士野地区にエゾカンゾウが群生します。道道沿いから眺めは絶好の撮影ポイントになっています。別名エゾゼンテイカと呼ばれるエゾカンゾウは約 8cm のオレンジ色の花をあたり一面に咲かせ、見る者の目を楽しませてくれます。

《エゾカンゾウ群生》

《夕日ヶ丘展望台からの夕陽》

☞ 晴れた日には海が真っ赤にそまり、礼文島のシルエットが幻想的な風景になります。ポンモシリを眼下に見渡す小高い丘で頂上から右にペシ岬、左に礼文島、正面に稚内が一望でき、最北の水平線を染める夕日が美しいです。

《夕日ヶ丘展望台からの夕陽》

《姫沼の逆さ富士》

☞ 原生林に包まれた姫沼は深い木立に囲まれた周囲８００mの綺麗な沼で、風が止むと鏡のような湖面に利尻山が　逆さ富士となって見る人を楽しませます。また、沼の周囲は木道が整備され周遊できるようになっており、マイヅルソウやウメバチソウが可憐な小花をつけます。風が凪ぐ、早朝にしか見られない貴重な風景です。

《姫沼の逆さ富士》

《オタトマリ沼》

☞ 日本最北限のエゾアカマツに囲まれ、明るく開放的な雰囲気が漂います。神秘的な雰囲気の姫沼とは対照的に、6 月から 7 月には爽やかな水辺をカキツバタなどの季節の花々が楽しめる散策路を鮮やかに彩ります。1 周約 30 分の散歩道から眺める利尻富士は雄大そのものです。

《オタトマリ沼》

《利尻ふれあい温泉・足湯》

☞ 平成 17 年から開湯された天然温泉を「ホテル利尻」に併設された「ふれあい保養センター」で楽しむことが出来ます。鉄分を多く含む炭酸泉水の美肌効果と、爽快な湯上り感が特徴です。町道脇には「足湯」施設もありますので、ドライブや散策で疲れた足を癒して下さい。

《見返台園地》

《見返台園地》

☞ 利尻山の沓形登山道入口にもなっている見返台園地は標高５００mの高さにあり、利尻山頂を間近に見ることができます。また、沓形市街地や礼文島を眼下に見ることも出来る絶好のポイントです。

《利尻ふれあい温泉・足湯》

■特徴ある景観資源

《ヤムナイ沢からの利尻富士》

☞ 険しい山容は神々しさが漂います。万年雪を抱くヤムナイ沢を正面にした利尻山の眺めが雄大です。

《南浜湿原》

☞ 高層湿原でありながら低層湿原の特徴であるミズバショウが群生する貴重な湿原です。静かな湿原の中は木道が整備されているので利尻富士を眺めながら、咲き誇る野の花を観察しながらの散策に最適です。ミツガシワの花時は見逃すことのできない見事なものであり、毎年多くの鳥類がおとずれる静かな場所でもあります。

《オタトマリ沼からの早春の山容》

☞ 北海道銘菓「白い恋人」のパッケージ写真に採用されている美しい山容です。沼浦展望台から望む利尻山は、パッケージの写真に一番近いと言われていることから「白い恋人の丘」と名付け、新たな観光スポットとして人気となっています。

《ウニ漁、コンブ漁風景》

☞ ６月～８月にかけて見られる利尻島の特産品ウニ、コンブの漁風景。浜が活気であふれます。

《奇岩「寝熊の岩」「人面岩」》

☞ 利尻島の西側は利尻山から噴出された溶岩流と長い年月の波の力で形作られた奇岩を見ることが出来ます。代表的なのは、熊が寝ているように見えることから名づけられた「寝熊の岩」です。

《神居海岸草原》

☞ 島の春は、海岸から始まります。雪解けとともにエゾエンゴサク、スズラン、エゾカンゾウ、ハマナス、ススキと、春から秋にそれぞれの花々が海と礼文島を背景に咲き誇ります。

《ヤムナイ沢からの利尻富士》

《南浜湿原》

《オタトマリ沼からの早春の山容》

《ウニ漁、コンブ漁風景》

《奇岩「寝熊の岩」「人面岩」》

《神居海岸草原》

■特徴ある観光・参加体験型資源

《利尻山登山》

☞ 日本百名山の一つ目の山に数えられる利尻山はアルピニスト憧れの山です。

《甘露泉水》

☞ 利尻山という天然のろ過器をもつ利尻島は離島でありながら水に恵まれた島です。甘露泉水は日本名水百選に選ばれています。

《ポン山姫沼ハイキングコース》

☞ 北麓野営場からポン山を経由し姫沼に抜ける全長約 4km のハイキングコース。ポン山からは鴛泊市街、遠くに礼文島を一望することができる。

《甘露泉ハイキングコース》

☞ 平成 17 年に気軽に楽しめるハイキングコースが整備されました。旧登山道を整備したもので全長 1.5km、約 30 分で甘露泉水に着きます。

《利尻富士温泉》

☞ 平成 8 年湧出に成功し、日本最北の離島の温泉として人気が高い。露天風呂から眺める利尻富士が旅の疲れた体を癒します。また、平成 17 年には新たな観光資源として、温泉の余剰水を利用した温泉プールが完成しました。

《利尻山登山》

《甘露泉水》

《ポン山姫沼ハイキングコース》

《利尻富士温泉》

《海藻おしば体験》

☞ 「リシリコンブの里」利尻島は豊かな海に恵まれています。その豊かさの証とも言える利尻の海で育った海藻を使い「押し花」や「押し葉」と同じような作品つくりを楽しむことができます。

《海藻おしば体験》

《麗峰湧水》

☞ 島の水は利尻山に降り積もる雪が十数年の歳月をかけて、人々に恵んでくれるものです。まさしく「何も足さない、何も引かない」そうした良質の水が、道路脇に湧水しています。

《麗峰湧水》

《利尻町森林公園自然観察》

☞ 天然の森林を活かしながら遊歩道が整備された「利尻町森林公園」は、春から秋まで花や鳥などの自然観察に格好のポイントになっています。冬はスノーシューでのウォーキングが楽しめます。

《利尻町森林公園自然観察》

《沓形港展望施設（防波堤）から沓形岬公園散策》

☞ 礼文島とのフェリーが就航している沓形港の防波堤は親水機能としての展望施設が整備されているので、海と山を眺め、近接している沓形岬公園でクロユリなどのフラワーウォッチングができるポイントです。

《沓形岬》

■特徴ある地域・文化資源

《リシリヒナゲシの里》

☞ 湾内地区の道道沿いでは、地域住民が利尻島固有の高山植物であるリシリヒナゲシを栽培しており、6 月から 10 月の長期間にわたってその可憐な姿を楽しむことが出来ます。

《リシリヒナゲシの里》

《会津藩士の墓》

☞ 1807 年、利尻島がロシアの襲撃を受けた事件があり、幕府は会津藩をはじめとする奥羽諸藩に蝦夷地防備の出兵を命じます。利尻島には 252 名の藩士が派遣され警備にあたりました。事故や病気で亡くなった方を弔った墓碑が町内２箇所に設置されています。

《会津藩士の墓》

《ラナルド・マクドナルド渡島の地》

☞ ペリーの黒船来航の 5 年前に利尻島にアメリカの青年ラナルド・マクドナルドが上陸しました。当時日本は鎖国下にあったため長崎に護送され、森山栄之助ら 14 名の通詞に英語を教え、自らも日本語を学びました。その上陸を記念した碑が野塚展望台に建てられています。

《ラナルド・マクドナルド渡島の地》

《利尻島の地名に読むアイヌ語》

☞ アイヌ文化、地名～江戸時代、利尻にはすでにアイヌの人々が住む社会がありました。現在、島で使われている地名の多くはアイヌ語に通じるもので利尻という島の名前もリイシリ【高い山のある島】に由来します。

利尻島の地名に読むアイヌ語

・ポンモシリ 【小さな島】
・オスットマリ（鴛泊）【岬の根元にある入江】
・オタトマリ（沼浦）【砂浜のある入江】

《利尻町立博物館》

☞ 利尻島の成り立ちから、そこに暮らす人々の歴史、自然に関する展示や解説があります。ここで、利尻島に関する情報を入手して利尻島を十分に楽しむことが出来ます。

《利尻町立博物館》

《時雨音羽「出船のみなと」歌碑》

☞ 利尻島出身で「君恋し」など歌謡曲の作詞家として知られる時雨音羽の「出船のみなと」の歌を聴くことの出来る音響ボックスもあります。

《袋澗》

☞ 昭和３０年代までニシン漁が盛んだった時代、水揚げのために石を積み上げて築いた「袋澗」と言われる船入澗が数箇所残っており、往時を偲ぶことができます。

《会津藩士の墓》

☞ 近世の利尻島における大きな転換期を迎える時代、蝦夷地警護のために利尻島に渡来し、厳しい任務にあたり殉職していった会津藩士の墓です。

《会津藩士の墓》

10）れぶんアツモリロード

礼文島は南北２９㎞東西８㎞の細長い島で断崖絶壁が連なる西海岸に対し、東海岸線は比較的緩やかな地形で南北を縦断するように車道があります。

中でも、このれぶんアツモリロードは道々礼文島線の上泊から知床間のどの場所からも「秀峰利尻富士」の美しい雄姿を眺望することができます。

れぶんアツモリロード

トド島
スコトン岬
上村占魚句碑
銭屋五兵衛記念碑
金田ノ岬
礼文空港
礼文町総合公園
ゴロタ岬
レブンアツモリソウ群生地
（5月下旬～6月下旬）
高山植物培養センター・高山植物園
（6～10月開園/6～8月無休、9～10土日祝休）
久種湖
礼文町久種湖キャンプ場
（5/1～10/31OPEN）
澄海岬
ミズバショウ群生地
（4～5月）
散策路
4時間コース
利尻・礼文・サロベツ国立公園
礼文岳
日食観測記念碑
礼文町
REBUN
礼文町緑ヶ丘公園
緑ヶ丘公園キャンプ場
（5/1～10/31OPEN）
散策路
8時間コース
礼文林道
水中公園
礼文滝
見内神社
40
地蔵岩
元地海岸（メノウ浜）
礼文町役場
香深港
桃台猫台
猫岩
郷土資料館
（5～10月開館
月曜休、祝日の場合は翌日休）
桃岩展望台
北のカナリアパーク
フンベ灯台

― 凡 例 ―
空 港
道 道
観光・文化施設
キャンプ場
公 園
フェリーターミナル
国立公園・道立自然公園
体験施設
景 観
国 道
温 泉
史 跡

■特に優れた資源

《海抜０メートルの高山植物》

☞ 「海抜０メートルの高山植物」をキャッチフレーズに「最北の花の浮島」として本州では 2,000 メートル以上の高い山でなければ見ることのできない 300 余種におよぶ高山植物が咲き乱れます。高山植物は島の西海岸に多く群生しており、中でも「レブンアツモリソウ」は礼文島の固有種であり、平成６年には「特定国内希少野生動植物種」に指定されております。

《レブンアツモリソウ》

■特徴ある景観資源

《スコトン岬》

☞ スコトン岬は礼文島最北端の地で、正面には無人のトド島が浮かび、晴れた日には遠くサハリンを望むことができます。８時間コース、４時間コースの出発地点でもあり、「日本最北限のトイレ」があります。

《スコトン岬》

《ゴロタ岬》

☞ 険しい岩の突き出たゴロタ岬は自然の美しさを満喫できます。

《ゴロタ岬》

《澄海岬》

☞ ここの入江は海底を手ですくいとれるような透明度で、その美しさは礼文の海の代表格です。

《澄海岬》

《桃台、猫台》

☞ 桃岩と猫岩を一度に展望できる施設です。こちらは猫岩、猫が海を眺めているかの様です。こちらは桃岩、その名の通り大きな桃の様です。

《猫岩》

《地蔵岩》

☞ 高さ約 50 メートルの奇岩で、夕日のポイントでもあります。

《桃岩》

《メノウ海岸》

☞ 運がよければ海流に打ち寄せられたメノウの原石が見つかるという海岸です。「瑪瑙」と書いてメノウと読みます。

《メノウ海岸》

《地蔵岩》

■特徴ある観光・参加体験型資源

《北のカナリアパーク》

☞ 映画「北のカナリアたち」のロケ地。礼文島南部の高台で、ロケが行われるまでは一般の人は立ち寄るところではありませんでした。でも、島の人はここから見る利尻富士が一番と言います。はるが赴任した麗端小学校岬分校。この映画のために建てられたメイン舞台です。

《北のカナリアパーク》

《トレッキングコース》

☞ 車道が縦断する東海岸線に対し、西海岸は断崖絶壁が多いことから遊歩道が縦断しており、８時間コースや桃岩展望台コース等時間や体力に合わせてすばらしい景観や数多くの高山植物を「歩いて」楽しむことができます。

《トレッキングコースマップ》

○4時間コース
　礼文島最北端のスコトン岬から南に歩いてゴロタ岬、澄海岬へとめぐる4時間のコース。花の種類も多く、海の青さが印象的。鉄府海岸で穴あき貝も拾える。
○8時間コース
　4時間コースからさらに南下し、宇遠内を経由して礼文林道までの8時間コース。1日かけて礼文島西海岸を縦断し、多彩な景観が楽しめます。
○桃岩展望台コース
　桃岩展望台から元地灯台を経て知床へと続く桃岩遊歩道は高山植物の宝庫。約2時間で礼文島西海岸の絶景と利尻富士、高山植物を満喫できます。
○礼文岳登山コース
　標高 490m の礼文岳には片道約4.5km、約2時間で登ることができます。頂上からはスコトン岬や利尻富士など壮大な 360 度のパノラマが楽しめます。
○礼文林道コース
　香深井から礼文林道を歩く8km、約2時間のコース。6月～7月にはレブンウスユキソウの群生地をはじめ花の種類も豊富で、利尻富士の眺めが印象的。

《桃岩展望台コース》

■特徴ある地域・文化資源

《「指定文化財」、「厳島神社祭」等》

☞ 礼文島は遺跡の島と言われるほど、縄文時代やオホーツク文化など、複数の時代の遺跡が数多く見つかっています。中でも島の北部にある「船泊遺跡」から出土した遺物は、国の重要文化財に指定されているほか、町や道が指定する遺物もあり、太古の先人が残した貴重な文化遺産として近年注目を集めています。また、江戸時代後期に創建された厳島神社には、島で唯一の伝統芸能として１世紀近くにわたって「四ヶ散米舞（しかさごまい）行列」が継承されています。町の無形民俗文化財にも指定されているこの行列は、毎年７月に行われる神輿渡御の際に、先導役を務める行列の勇壮さは、太古の昔から海とともに暮らしてきた島の人々の力強さを表しているかのようです。

《四ヶ散米舞行列》

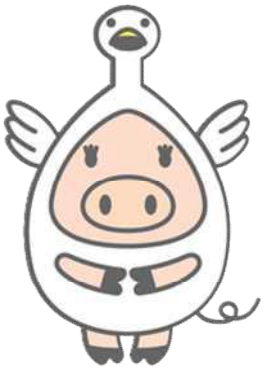
11)北の浮島航路

北の浮島航路は、“日本のてっぺん”稚内市と、“夢の浮島”利尻島及び“花の浮島”礼文島を相互に結ぶ日本最北の航路です。

北の浮島航路

12）はまとんべつスワットンロード

クッチャロ湖に舞い降りる美しい白鳥のように、浜頓別町に幸せを運ぶ妖精「スワットン（浜頓別町公式キャラクター）」の名前がついたルートです。クッチャロ湖やベニヤ原生花園など、希少な自然が楽しめます。



はまとんべつスワットンロード

■特に優れた資源

《ラムサール条約指定地　クッチャロ湖》

☞ クッチャロ湖とその周辺湿地には、春と秋にコハクチョウをはじめとしたカモ類が集まり、夏にはオジロワシやカワセミなどが子育てに利用し、冬にはオオワシや海ガモ類が渡ってきます。
クッチャロ湖に舞い降りる美しい白鳥のように、浜頓別町に幸せを運ぶ妖精「スワットン(公式マスコットキャラクター)」もときどき、姿を現します。

《クッチャロ湖》

《ベニア原生花園》

☞ 園内では、５月～８月にかけて、湿地・海岸・高山植物が１００種類以上も見ることができる天然の花園です。また、日本では、道北でしか子育てをしていないツメナガセキレイなどの野鳥や町の文化財に指定しているコモチカナヘビも生息しています。北オホーツク道立自然公園にも指定されています。

《ベニア原生花園》

《クローバーの丘》

☞ クッチャロ湖を望む丘一帯の草原が、時期的にクローバーの群生地となっており、遠くにはオホーツク海を望むことができ、絶景が見られます。丘にある「幸福の鐘」を鳴らすと幸せになれると噂されています。

《クローバーの丘》

《斜内山道》

☞ 枝幸町との境界にある標高４３９ｍの斜内山道から海に突き出た風光明媚な岬です。山道を通り突端へ出ると輝くオホーツク海の雄大な風景が広がります。アイヌ民族の神聖な場所として、大切にされていた歴史があり、平成 22 年に「ピリカノカ　神威岬（カムイエトゥ）」の名で国の名勝に指定されています。また、冬には、流氷が接岸します。

《斜内山道》

《ポン沼》

☞ 国道 238 号から、道道浅茅野台地浜頓別線を進むと右側にポン沼があります。名称の由来は、アイヌ語の「ポン（小さい）」からきています。周囲３ｋｍ程の沼です。森林管理署の入林許可を受ければ、遊歩道の散策も行え自然がそのまま残る神秘的な景色が楽しめます。

《ポン沼》

《海産物・乳製品》

☞ オホーツク海では、冬の流氷が豊富なプランクトンを運んでくるため、美味しい鮭、毛がに、ホタテ、たこ、カレイなど海の恵みがふんだんに獲れ、水産加工品や牛乳を使った乳製品が町の特産となっています。また、釣りも盛んで夏から秋にかけては、海岸が鮭釣り客でいっぱいになります。

《海産物・乳製品》

■特徴ある観光・参加型体験資源

《クッチャロ湖》

☞ 春と秋には多くの白鳥がクッチャロ湖に渡ってきます。湖畔では、白鳥の餌を販売しており直接白鳥に給餌ができます。夏には、無料でカヌーの貸し出しを行っており湖からの景色を楽しむことが出来ます。また、キャンプ場も整備され湖に沈む美しい夕焼けを見ながら、バーベキューを楽しむ事もできます。

《ベニヤ原生花園》

☞ ３３０ｈａの園内には遊歩道が整備され、ゆったりとした時間を過ごしながら、自然の草花と鳥の声を存分に楽しむことが出来ます。シーズンには、フラワーガイドによるガイドを受ける事もできます。

■特徴ある地域・文化資源

《クッチャロ湖水鳥観察館》

☞ ラムサール条約登録湿地において、湿地の価値の普及啓発及び水鳥、湿地のモニタリングの拠点として環境省により設置されました。クッチャロ湖に飛来する水鳥などの情報を発信しています。

《はまとんべつ温泉》

☞ 「美人の湯」と銘打っているはまとんべつ温泉は、良質の天然温泉です。クッチャロ湖を一望できる「はまとんべつ温泉ウイング」及び「温泉付コテージ」は、自然を楽しむ滞在客に人気です。

《ハルニレの木》

☞ 国道 275 号、下頓別地区に樹齢５００年とされるのハルニレの木があります。昭和４８年に北海道の記念保護樹木に指定されています。老木のため、近くには寄れませんが、太い幹と空を覆う雄大な姿に長い歴史を感じる事ができます。

《カシワ林群生地》

☞ 国道 238 号、豊浜から斜内の海岸にカシワ林が群生しています。道の学術自然保護地区に指定され、これだけ広く群生するのは珍しいとされています。

《竜頭の松》

☞ 市街地にあるお寺「浄覚寺」の敷地内にある「竜頭の松」は、昭和４９年道の記念保護樹木に指定されています。

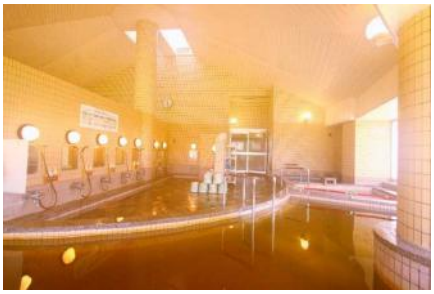
《市民風車「はまかぜちゃん」》

☞ 国道 238 号、頓別から斜内に向かう直線道路沿いに、日本初の市民風車「はまかぜちゃん（愛称）」１基が設置されました。設置にあたっては、野鳥や人への配慮がされ、民間設置の４基と共にオホーツク海の風を受けて回っています。目の前が海、回りを牧場に囲まれた中にそびえ立つ真っ白な風車はとても美しく見えます。

《クッチャロ湖》

《クッチャロ湖水鳥観察館》

《ベニヤ原生花園》


《はまとんべつ温泉》

《ハルニレの木》

《市民風車「はまかぜちゃん」》

13）はまとんべつゴールドラッシュロード

明治３１年に砂金が発掘されて以来、「東洋のクロンダイク」と言われ、３度のゴールドラッシュがあった“ウソタンナイ”エリアのルートです。今では、ウソタンナイ砂金掘公園として、砂金掘体験やキャンプなどが楽しめます。

また、川に遡上する鮭・マスを狙って１１月から３月頃、４００羽～５００羽のオオワシ・オジロワシが集まる「オオワシの森」も見ごたえがあります。

はまとんべつゴールドラッシュロード

■特に優れた資源

《ウソタンナイ砂金採掘公園》

☞ 明治３１年に砂金が発掘されて以来、「東洋のクロンダイク」と言われ砂金掘りに沸き、３度のゴールドラッシュがありました。現在も、川で砂金が取れるため、公園とキャンプ場を整備し、期間中は多くの愛好者や観光客が来園しています。

《ウソタンナイ砂金採掘公園》

《オオワシの森》

☞ 頓別の河畔にあるオオワシの森には、川に遡上する鮭・マスを狙って１１月から３月頃、４００羽～５００羽のオオワシ・オジロワシが集まります。１本の木に４０羽程のワシが止まる「ワシの成る木」は、見ごたえがあります。

《オオワシの森》

■特徴ある観光・参加型体験資源

《ウソタンナイ砂金採掘公園》

☞ 日本古来の砂金掘り技法である「ゆり板」と「カッチャ」を使った砂金掘りが体験出来ます。天候に左右されずに楽しめる水槽掘りもあり、初心者にも楽しめます。

■特徴ある地域・文化資源

《ゴールドハウス》

☞ 砂金掘りの受付、技術指導などを行っています。ゴールドラッシュ当時の写真や当地で産出した日本最大の砂金塊のレプリカも展示し、砂金の歴史を紹介しています。また、民芸品の販売や、取れた砂金の加工などを行っています。開館６～９月。

《ゴールドハウス》

《金山神社（跡地）》

☞ かつて砂金採掘が盛んな時期に建てられた神社が、現在も３．３㎡に満たない石垣上に、石碑と標注が残っており、金山神社は浜頓別町文化財として指定されています。

3. ルートにおける活動の現状

宗谷シーニックバイウェイルート周辺を活動エリアとしている団体のうち、ルートの運営・活動への参画を申し出ている団体は、２５団体あります。

◆NPO法人映像コミュニティ・ムーブユー

代表者名：高谷　邦彦

発足日：平成 15 年 3 月

会員数：　20 名

◆主な取組み

- 官公庁の推進する事業へ映像制作のノウハウ及びコンテンツの提供
- 映像制作講座など市民ワークショップの開催
- 宗谷地域を題材とした映像ドキュメンタリー制作
- 制作したコンテンツをインターネットでストリーミング配信
- 市民を対象にした自主映画祭の開催

◆活動や取組みにおける課題

- メンバーの多忙化

◆今後の活動や取組みの予定

- 樺太（現サハリン）コンテンツの充実

◆猿払イトウの会

代表者名：小山　内浩一

発足日：平成 17 年 4 月

会員数：　30 名

◆主な取組み

- 日本最大の淡水魚「イトウ」、IUCN(国際自然保護連合)・環境省により絶滅危惧種に指定されている。2013 年から 2015 年(毎年 4 月～5 月の約 1 ヶ月間)の 3 年間、国立研究開発法人国立環境研究所等が調査研究を実施した、高分解能音響ビデオカメラ「DIDSON」「ARIS」による「イトウの遡上モニタリング」により、正確なイトウの生息数を把握し、科学的根拠に基づくイトウ保全施策に反映するよう、同調査に協力している。また、イトウの遡上の弊害となる倒木等の撤去作業を行っている。

◆活動や取組みにおける課題

- イトウの保全活動に対し一定の理解を得られているが、絶滅危惧種であるため情報発信にも制限があり、また、イトウに魅力を感じるのは、釣り人・写真家等であり、観光・産業に中々結びつかないため、活動参加者の裾野を広げることが難しい。

◆今後の活動や取組みの予定

- 研究者等が行う、イトウ調査研究への協力。
- 猿払川河口周辺の清掃活動。
- 猿払イトウ保全協議会が行う、大学生(主に北海道大学・酪農学園大学)対象の環境教育研修への協力。
- イトウの遡上の弊害となる倒木等の撤去作業　等

◆宗谷建設青年会

代表者名:斎藤　敬介

発足日:昭和 61 年 12 月

会員数:　33 名

◆主な取組み

- 減災・防災への取組
- 他団体との交流・意見交換
- 人材育成への取組
- 地元イベントへの企画・参加

◆活動や取組みにおける課題

- 減災・防災への取組に対する参加者不足（市民の関心が薄い・PR不足）
- 人材育成への取組（担い手不足）

◆今後の活動や取組みの予定

- 土木の日
- 現場見学会
- 北海道建青会全道大会
- 創立30周年記念事業

◆未来のくらしと宗谷路（ネットワーク）を考える会

代表者名:久手　　剛

発足日:平成15年12月

会員数:30名

◆主な取組み

- 「道を通じて地域の発展を図る」ために国道40号サラキトマナイ防雪事業への協力を行った。また、地域らしさの道づくりや宗谷の未来像を考える契機とするため「地域協働型インフラ整備の重要性」についての講演会や「国土の強靭化への取り組み」「自然観光の敢行」「地域づくりの重要性」について10周年記念シンポジウムを開催した。

◆活動や取組みにおける課題

- 完成したサラキトマナイ防雪事業の各関係者と連携した今後の PR 活動
- 稚内～名寄間高速交通網整備実現の為、各関係市町村との意識の共有

◆今後の活動や取組みの予定

- 稚内～名寄間高速交通網整備の早期実現を目指す活動
- シーニックバイウェイへの支援
- 道路事業に関する各種連携活動

◆利尻島を考える会

代表者名:白戸　浩明

発足日:昭和 15 年 1 月

会員数:6 名

◆主な取組み

- 利尻島内のゴミ拾い
- 各会や各産業の島民との会議・懇談

◆活動や取組みにおける課題

-

◆今後の活動や取組みの予定

- 利尻島内のゴミ拾い
- 各会や各産業の島民との会議・懇談

◆利尻富士町宿泊業組合

代表者名：工藤　明夫
発足日：平成 4 年 4 月
会員数：　39 名

◆主な取組み
- 観光に関する情報共有と発信
- 来訪者へのサービスの向上

◆活動や取組みにおける課題
-

◆今後の活動や取組みの予定
- 観光に関する情報共有と発信
- 来訪者へのサービスの向上
- 各種イベントや取組みへの協力と連携

◆稚内観光協会青年部

代表者名：池野　恵介
発足日：平成 4 年 4 月
会員数：　39 名

◆主な取組み
- 観光イメージキャラクター「出汁之介」を使った PR 活動（メディアへの露出、世界キャラクターさみっと in 羽生、札幌競馬場への参加・出店など）

◆活動や取組みにおける課題
- 部員の増強と出席率の向上

◆今後の活動や取組みの予定
- 着地型観光コースの造成（旅行業登録した稚内観光協会と連携）

◆稚内商工会議所

代表者名：中田　伸也
発足日：昭和 23 年 6 月
会員数：860 名

◆主な取組み
- 地域経済の振興発展を図ることを目的に経済対策の推進を図る。
  （意見要望活動　・地域振興に向けた調査、研究）
- 地域の中小企業者に対する経営改善事業の実施
  （経営相談、販売促進の指導等）

◆活動や取組みにおける課題
- 基幹産業を水産、酪農、観光と捉え、各種事業を展開している。
  水産：漁業資源の減少、後継者問題など水産業を取り巻く環境は厳しいものがある。水産加工においては食の安全基準の啓発に努める。
  酪農：国際競争に負けない安全、安心な農畜産品の供給に各農家は努めている。生産性の向上を目指し、当所では要望活動として、国営総合農地防災事業の促進に向けた活動を展開している。
  観光：観光客の誘客は即効性の高い経済効果を発揮する、よって広域的な誘客体制を確立すると共に、交通ネットワークの整備促進を進める。

◆今後の活動や取組みの予定
- 観光客の誘客に向けた取組みに特化。
  ・ミッシングリンクの解消等に向けた国道の整備促進
  ・冬期間における就航率向上等に向けた空港の整備促進
  ・大型客船入港可能な港湾に向けた港湾の整備促進　　など

◆稚内青年会議所

代表者名:秋元　哲哉

発足日:昭和 30 年 7 月

会員数:36 名

◆主な取組み

- 冬季事業(わっかない氷雪の広場)
- ・青少年育成事業(職業体験)「わくわくワークフェス」
- ・地域活性事業(稚内市民時計)
- ・稚内PR事業(青年会議所主催事業での稚内ブース出店等)
- ・まちづくりの為の各種取り組み

◆活動や取組みにおける課題

- 青年経済人として、明るい豊かな社会を築き上げるを念頭に、自らが率先して行動し、土壌造りをしていかなければならない

◆今後の活動や取組みの予定

- 年度は創立60周年でもあり、記念事業、稚内PR・異業種交流も交えた(姉妹都市石垣市交流事業)等、計画しているなかで、青少年事業「わくわくワークフェス2015」の開催、地域活性事業の構築等、色々な角度から、青年会議所が、地域発展の活力として日々の運動を行わなければならない

◆稚内のみなとを考える女性ネットワーク

代表者名:岩本　明子

発足日:平成 15 年 4 月

会員数:11 名

◆主な取組み

- WAKKANAI みなとコンサート
- ・北防波堤ドームのアルメリア植樹
- ・みなと見学会
- ・かまくらで遊ぼう

◆活動や取組みにおける課題

- ・地域の活動として市民へより広げる
- ・みなとオアシスとの連携

◆今後の活動や取組みの予定

- 稚内の観光名所であり、北海道遺産および土木遺産に指定された歴史的建造物「北防波堤ドーム」およびその周辺の公共施設への集客を図り、活用し今後も継続して毎年の取り組みをする

◆稚内ホテル旅館業組合

代表者名:遠藤　章広
発足日:昭和　年　月　日
会員数:　43 店

◆主な取組み

- 花いっぱい運動

◆活動や取組みにおける課題

- 各施設への周知徹底、参加協力が必要

◆今後の活動や取組みの予定

- 花いっぱい運動

◆稚内みなとまちづくり懇談会

代表者名:横澤　輝樹
発足日:平成 15 年 8 月
会員数:　25 名

◆主な取組み

- 稚彩北わっキャナイト(スノーキャンドルイベント)

◆活動や取組みにおける課題

- 会員及び活動資金の確保

◆今後の活動や取組みの予定

- 稚彩北わっキャナイト(スノーキャンドルイベント)

◆フラワーマスター稚内

代表者名:横澤　輝樹

発足日:平成 18 年 6 月

会員数:　25 名

◆主な取組み

- 稚内空港線植樹帯、禎心会病院前花壇、稚内公園円形花壇　植栽活動

◆活動や取組みにおける課題

- 会員の高齢化と活動資金の確保

◆今後の活動や取組みの予定

- 稚内空港線植樹帯、禎心会病院前花壇、稚内公園円形花壇　植栽活動

◆稚内市歴史・まち研究会

代表者名:富田　伸司

発足日:平成 18 年 5 月

会員数:　45 名

◆主な取組み

- 稚内市内に存在する歴史的建造物の保存・活用
- 稚内の歴史を「宗谷防人物語」として、市民講座などを通じて周知する
- １２月８日（真珠湾攻撃）に平和の祈りを込めた灯篭を設置

◆活動や取組みにおける課題

- 歴史的建造物の保存・修復の財源不足
- 歴史的建造物の活用方法

◆今後の活動や取組みの予定

- 歴史的建造物（恵北地区、赤れんが通信所）の周知
- ・「宗谷防人物語」のさらなる周知

◆稚内観光協会

代表者名:岩間　幹生

発足日:昭和 24 年 4 月 1 日

会員数:　245 の企業・団体

◆主な取組み

- 観光客誘致事業（道内・道外・インバウンド、PR やプロモーション）
- 観光客受入事業（観光案内所、各種ツアー受け入れ、フットパス整備など）
- グッズ販売事業（出汁之介をモチーフとしたグッズなど）
- 各団体と連携した事業（北宗谷広域観光推進協議会、宗谷観光連盟などなど）

◆活動や取組みにおける課題

- 自主財源の増強
- 地域限定旅行業登録（平成 26 年 6 月）後の基盤整備
- 組織基盤の強化

◆今後の活動や取組みの予定

- まちあるき事業（市内の歴史的建造物と繁華街をめぐる行程）
- 着地型観光の推進

◆豊富町観光協会

代表者名:西森　功

発足日:昭和 51 年 11 月

会員数:　95 件

◆主な取組み

- パンフレット、インターネット等による観光情報の発信
- 観光案内所による紹介宣伝
- 観光イベントの実施、協力
- 町おこし事業への協力、ご当地グルメ、特産品の開発

◆活動や取組みにおける課題

- 行政からの補助金事業の為、財源が不足している
- 会員減少による財源減少
- 事務局の動き次第で業務量が変わりマンパワーが不足している
- ホームページ、パンフレット、観光情報センターなど外国人の受入れ整備体制ができていない
- 協会内での事業推進に対する合意形成、組織の可視化

◆今後の活動や取組みの予定

- 外国人受け入れ体制の整備
- 地域住民に対する観光面での啓蒙活動
- 豊富温泉の特性を生かした体験ツアーの継続と改善
- 豊富ホッキチャウダーに続くご当地メニューの開発推進
- 町以外の補助金申請活用

◆猿払村観光協会

代表者名:鳥谷部　徹雄

発足日:昭和 43 年 4 月 24 日

会員数:62 名(法人・個人)

◆主な取組み

- Facebook、ホームページ更新による情報発信
- ・道の駅さるふつ公園窓口業務
- ・「さるふつ観光まつり」など村内イベントによる賑わいの創出

◆活動や取組みにおける課題

- 体験型観光メニューの創出と担い手不足
- 道の駅を中心とした観光客の受入体制の整備

◆今後の活動や取組みの予定

- 着地型観光メニューの創出
- 道の駅観光地づくり

◆利尻町観光協会

代表者名:谷　智治

発足日:昭和 40 年 4 月

会員数:　72 名

◆主な取組み

- 地域資源と地域住民を活用した体験型の観光交流事業
- ・大型客船(クルーズ船)の歓迎事業
- ・大都市圏誘客プロモーション事業
- ・観光名所の美化活動

◆活動や取組みにおける課題

- 体験型観光メニューの創出と担い手不足
- 道の駅を中心とした観光客の受入体制の整備

◆今後の活動や取組みの予定

- 集落を主とし地域資源を有効活用した新たな観光事業
- 漁業と観光と商業が一体となったホスピタリティ事業
- 上記を踏まえ資源蘇生による体験観光交流事業の実施

◆利尻富士町観光協会

代表者名：藤田豊彦

発足日：昭和 40 年 4 月

会員数：110 名

◆主な取組み

- ウェブサイトや SNS、パンフレット、ウェブサイトにおける利尻島の観光情報の発信
- フェリーターミナル・空港観光窓口（案内所）における観光情報やイベント情報などの案内
- 観光旅行者向けの企画、イベント開催
- 観光資源の掘り起こしや磨きあげ
- 交通機関や関連会社・団体との連携業務、広域観光振興への取り組みなど

◆活動や取組みにおける課題

- 個人旅行客の誘致
- 観光ボランティアガイドの育成
- 個人旅行や外国人旅行者への対応や受け入れ環境の整備
- 観光事業者の意識改革
- 体験型観光メニューの創出と担い手の育成

◆今後の活動や取組みの予定

- 着地型観光メニューづくりと商品化
- 自転車観光の受け入れ環境づくりや路線バスを使った観光の確立
- 町中歩き観光の構築、ガイドの養成
- 既存の施設（例・漁業の産業遺産）のリニューアルや資源の磨きあげ
- 外国人観光客受入に関する施策（商品作り、プロモーション、環境整備など）
- 新しいトレッキングコースなどのルート開拓

◆礼文町観光協会

代表者名：久保　和夫

発足日：　昭和 40 年 7 月

会員数：　92 名

◆主な取組み

- 玄関口である香深港フェリーターミナルを中心とした地域情報の発信や、特選パンフによる PR の他、フラワーマラソン大会への協賛・後援により SBW の取り組みを進めています。
  また、礼文町と連携した活動としては「礼文島リボンプロジェクト」や広報誌への情報掲載等の取り組みを行っています。

◆活動や取組みにおける課題

- 特に、次世代を中心に将来への危機感が薄い事が気になります。きっかけ作り・気づきの機会はあるのですが、参加の意欲に欠けている事も大きな問題ととらえています。

◆今後の活動や取組みの予定

- これまで通り観光を中心とした取り組みを進めます。この中で、課題である次世代の育成は、礼文町と連携して「まち・ひと・しごと」戦略の中でこれまで以上に多様な考えを受け入れ、丁寧かつ迅速な対応を進めます。

◆宗谷バス株式会社

代表者名：中場　直見
発足日：　昭和 27 年 7 月
従業員数：　120　名
（臨時雇用者除く）

◆主な取組み

- 宗谷エリアを中心に路線バス、都市間バスを運行しています。
- 貸切車両 55 両にて、道内の観光振興に寄与しています。

◆活動や取組みにおける課題

- 地域の観光振興に対して企業として参画。
- 稚内観光協会や各種団体を応援。

◆今後の活動や取組みの予定

- 多様化する観光需要に柔軟に対応していきます

◆ハートランドフェリー株式会社

代表者名：蔦井　孝典

発足日：　昭和 40 年 7 月

従業員数：　120　名

（臨時雇用者除く）

◆主な取組み

- 利尻島・礼文島～稚内港への旅客定期航路事業
- 奥尻島～江差港・瀬棚港への旅客定期航路事業

◆活動や取組みにおける課題

- 地域の観光振興に対して企業として参画。
- 稚内観光協会及び利尻島・礼文島の各観光協会や各種観光関連団体を応援。

◆今後の活動や取組みの予定

- 多様化する国内観光需要及びインバウンド誘致に柔軟に対応していきます。

◆浜頓別町商工会

代表者名：中村　忠勝

発足日：昭和 36 年 1 月

会員数：135 名

◆主な取組み

- 地域内の商工業の複合的な発達、社会一般福祉の増進、国民経済の健全な発達に資することを目的とした取組み

◆活動や取組みにおける課題

-

◆今後の活動や取組みの予定

- 経済改善普及事業
- 地域振興事業
  ・町及び観光協会主催の事業（イベント等）への協力
  （北オホーツク100kmマラソン大会・クッチャロ湖水まつり等）

◆浜頓別町観光協会

代表者名：大野　充博

発足日：昭和 47 年 4 月

会員数：94 団体・個人

◆主な取組み

- 地域観光振興を目的とした情報発信や案内、また、地域の資源を活用したイベントによる誘客などの観光に関する各種事業

◆活動や取組みにおける課題

- 地域観光資源を活かした事業を、継続実施する。
- 各イベントは、それぞれの目的（ターゲット）を明確にし実施する。
- 観光地及びイベント情報を、町内外に情報発信する。
- 観光施策及び観光基盤の整備推進に努める

◆今後の活動や取組みの予定

- バードフェアの実施（4月～12月）
- 第52回クッチャロ湖湖水まつり開催（7月12日）
- 2015ウソタン砂金フェスティバル開催（8月9日）
- ふるさとまつり in 浜頓別2015開催（10月4日）
- 他、観光誘致宣伝及び交流事業の推進

◆NPO 法人クッチャロエコワーカーズ

代表者名：毛利　秀敬

発足日：平成 18 年 6 月

会員数：53名

◆主な取組み

- クッチャロ湖を「学ぶ」、「護る」、「広める」活動
- 森林や湿原の保全活動・野生動植物の保護活動・河川湖沼浄化活動と自然体験学習などを通じ子供の健全育成を図る活動

◆活動や取組みにおける課題

-

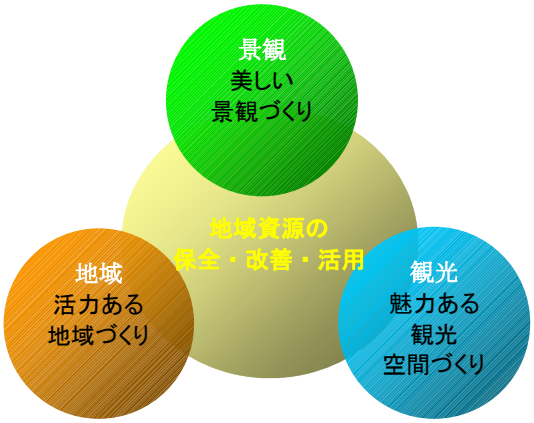
◆今後の活動や取組みの予定

- 森林や湿原、野生動植物の保護活動
- 河川湖沼浄化活動と自然体験学習

4. ルートストーリー実現に向けた活動

(1)各活動の目標

宗谷シーニックバイウェイでは、シーニックバイウェイ北海道全体の目的である、「美しい景観づくり」、「活力ある地域づくり」、「魅力ある観光空間づくり」を実現するために、テーマと7つのルートストーリーを設定しています。



ルートのテーマ ： あたたかい最北のみち

ルートストーリー

Story1 日本の最北端の変化に富んだ四季が演出する雄大な**自然景観**を見る。
Story2 活気・魅力ある『宗谷の素晴らしさ』を伝えるべく、**より良い環境**づくりを。
Story3 北海道遺産の指定地や、『次世代に遺したい宝物』を**歴史探訪**する。
Story4 この地でしか味わえない『宗谷らしさ』を**体験**する。
Story5 都会では決して味わえない『一番旨い海の幸・山の幸』を、**食**す。
Story6 宗谷の厳しい自然と共に暮らす、動植物や人々との**ふれあい**を感じる。
Story7 日本のてっぺんと花夢を結ぶ航路の中での**一期一会**がある。

このルートストーリーを実現するために、景観・環境、情報・観光の２つのテーマをもった活動を進めていきます。

（２）各活動の方針及び取組み

１）景観・環境に関わる活動

活動の目標： 宗谷の景観と環境を守り育てることで、他地域との差別化を図る

日本最北端に位置する宗谷が有する自然は、四季折々が織りなすドラマチックなシーンが存在しています。夏季は高山系植物の植生が海抜０ｍから観察でき、大規模な酪農景観が雄大さをみせてくれます。そうした利尻山を中心とした宗谷らしい景観は、見る場所・季節・時間などで様々な表情を演出してくれます。また厳冬期には、アザラシやトド・オオワシなど北海の海ならではの動物たちが逞しく生きている様も見ることができます。このような、景観と環境を住んでいる人々、訪れる人々が手を取り合って、守り育てます。

方針１・・・宗谷らしい自然景観や環境の保全と活用

取組み①：宗谷らしい景観や環境が体感できるポイントの創出と磨き上げ
取組み②：地場産業との連携による景観・環境の保全
取組み③：景観を美しくみせ、環境を守る清掃活動
取組み④：景観や環境を保全するルールづくり
取組み⑤：フェリー乗り場での泥落とし等外来種混入防止と駆除活動

方針２・・・住む人と来る人（交流人口）の幸せを共感できる環境づくり

取組み①：住民と観光客が双方プラスになる宗谷エコレージなどのプログラムの推進
取組み②：CO2 を削減するシーニックの森等の植栽活動の推進
取組み③：おもてなしを演出する春・夏・秋の季節に応じた植栽活動
取組み④：アイスキャンドルやスノーキャンドルによる冬の彩りの演出
取組み⑤：流氷を活用したプランターづくり

方針３・・・次世代が安心で豊かな生活がおくれる地域づくり

取組み①：宗谷の素晴らしさに対する認識向上及び啓発のための勉強会の開催
取組み②：地域の将来を担う子供たちへの教育活動
取組み③：地域コミュニケーション形成のための、ボランティアの育成

《スノーキャンドル》

《景観分科会の様子》

《環境分科会の様子》

3）情報・観光に関わる活動

活動の目標： 宗谷に関する情報をつなぎ、あたたかいおもてなしを提供する

宗谷は、大都市から遠く離れているうえに、利尻・礼文とは陸続きでは無いなど、「ひと」や「もの」が交流する上での地理的な障壁となっている面があります。一方、恵まれた自然・観光資源は、国内・国外からみても第１級の資源と言えます。このような資源を多くの方に、五感で堪能いただけるように、心からのおもてなしを表現することを目標とした「宗谷のおもてなし運動」を進め、さらに北海の食材資源を地域の特産品とし、「心に感動を与える」サービスを目指していきます。

方針1・・・特異な地理条件（利尻・礼文）を克服する情報発信

取組み①：観光案内所及び情報ボランティア等コミュニケーションによる情報提供
取組み②：既存ツール（ネットやSNS）及び紙媒体（ポスター等）を活用した情報発信の充実
取組み③：オンリーワンな情報発信内容・方法の検討と実施
取組み④：ルート及び情報発信場所における看板等の設置
取組み⑤：宗谷らしいシンボリックなデザインの提案

方針2・・・宗谷の魅力（底力）を磨き上げ十分に提供できるおもてなしの育成

取組み①：空港やフェリーターミナルなどの宗谷の玄関口におけるおもてなしの演出
取組み②：宗谷らしさが体感できる参加型・体験型のメニューづくり
取組み③：物産等の地域限定商品の発掘及び供給システムづくり
取組み④：景観や環境が体感できるポイントの活用とルートづくり
取組み⑤：フットパスやサイクリングなど新たなツーリズム創出
取組み⑥：既存の観光資源磨き上げによる新たな魅力の向上
取組み⑦：外国人観光及び教育・体験旅行の誘致

方針3・・・地域の問題をみんなで解決するシーニックバイウェイの連携強化

取組み①：分科会活動及び団体活動の情報共有・連絡のためのシステムづくり
取組み②：地域の課題を共有し解決策などを考える勉強会やシンポジウムの開催
取組み③：地域の将来を担う子供たちへの教育活動を通じた地域づくり
取組み④：次世代の宗谷地域、シーニックを担う人材の発掘・育成
取組み⑤：情報やおもてなしを行うボランティアの発掘・育成

《さいほくネット》

《情報分科会の様子》

《観光分科会の様子》

5. ルートの運営

（1）ルート運営方針

1）地場産業との連携

宗谷は、漁業と酪農が盛んな地域であり特に水産品は一級品です。この漁業や酪農との連携として、ウニの殻むき体験や、昆布干し体験などで体験型観光メニューが人気を集めています。これらは基幹産業であり、地域の景観を形成している大切な要素であり、連携することによって新たな景観を形成していくことができます。

また、その他のサービス業や観光に関わる業種、宿泊業などとも情報を共有し、来訪者へのサービスの向上を図ります。

2）各団体との情報共有及び管内外への総合的な展開

宗谷シーニックバイウェイには、対象エリアの７つの自治体の観光協会が加盟しておりますので、それぞれが集約している観光情報を共有し、各情報発信拠点（案内所・道の駅）から発信すると同時に、景観・環境分科会との連携を図りながら、宗谷管内外への総合的な展開に取り組んでいきます。

3）自己啓発及び地域浸透のための勉強会・シンポジウム等の実施

２つの分科会（景観・環境、情報・観光）が広域的かつ有機的に連携し、継続的な取組みを展開するためには、メンバー自身の啓発とともに、さらに地域への浸透を図っていくことが重要なポイントになります。各分科会の活動テーマに沿った勉強会やシンポジウムを各エリアで開催します。

4）次世代の育成や宗谷のネットワーク強化に向けた連携

宗谷シーニックバイウェイが指定ルートとなり、平成 27 年で 10 年目を迎えます。今後の宗谷地域を担う、次世代の発掘と育成とともに、「ひと」のネットワーク強化に向けて、観光や地域づくりに携わる若い世代を中心として、勉強会やワークショップを開催し連携を強化します。

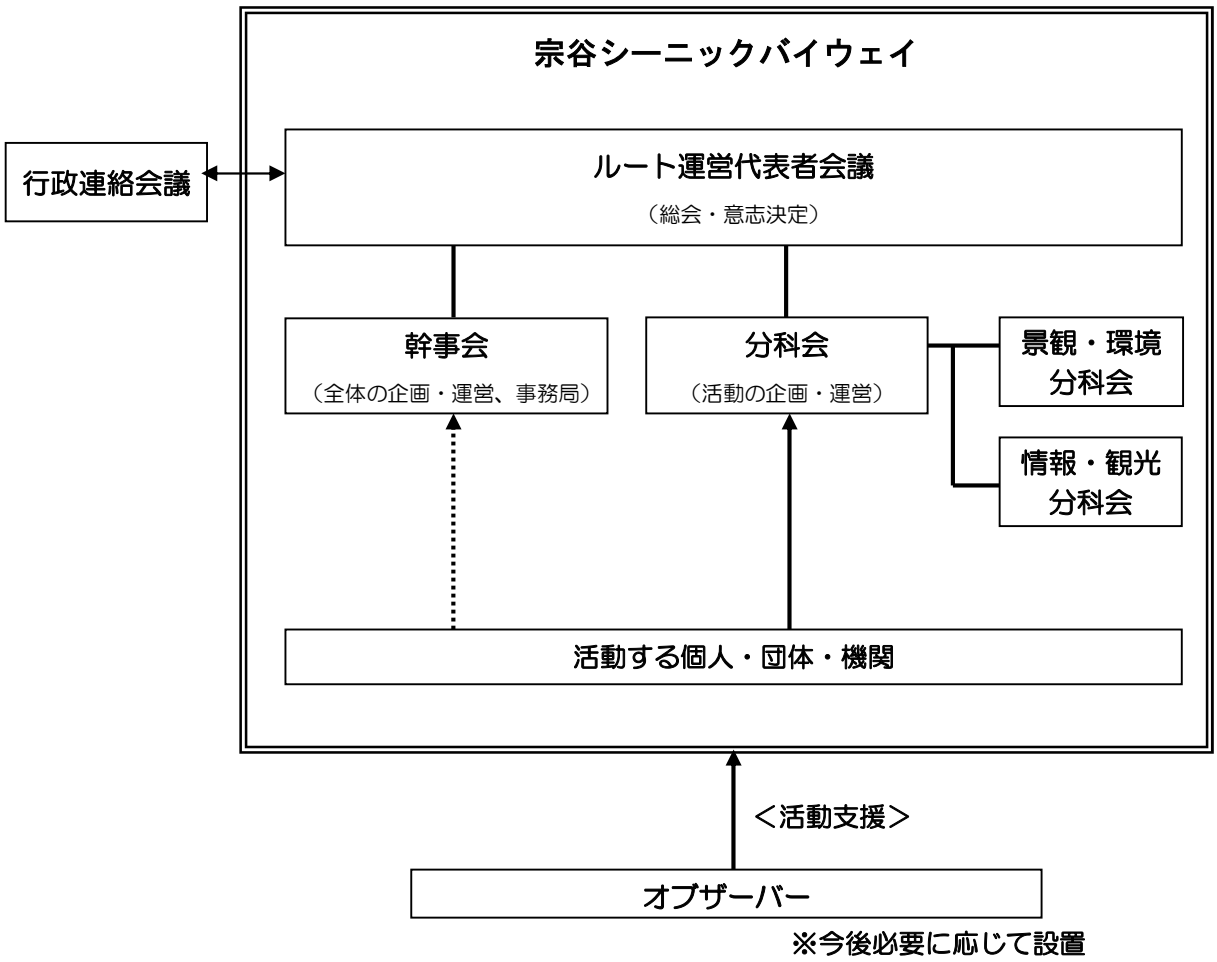
なお、ルート運営活動計画の見直しにあたっても、宗谷地域の若い世代を中心としたワークショップ「しゃべり場」を開催し、見直しに関する検討を行いました。

《ワークショップ「しゃべり場」》

（２）運営体制とその役割

１）運営体制図

当面のルート運営は、以下の運営体制図で推進することとします。



２）組織構成とその役割

①ルート運営代表者会議･総会

ルート運営代表者会議は、ツーリング環境・航路・散策路など宗谷地域における自然・景観・文化・歴史など様々な資源を理解し、それぞれの資源と共生を図りながら広域的な観点で個性豊かな魅力づくりを目指すことを目的としており、この目的に賛同できる住民・活動団体・関係機関等で構成されています。

②幹事会

幹事会は、各地域の代表者で構成され、ルート運営代表者会議の企画・運営を行うことを役割とします。

【役員構成】

役職	氏名	所属
代表	中場　直見	未来のくらしと宗谷路（（ネットワーク）を考える会
副代表	谷原　一郎	未来のくらしと宗谷路（ネットワーク）を考える会
	横澤　輝樹	稚内みなとまちづくり懇談会　代表幹事
幹事	吉井　繁	稚内観光協会会長代理
	西森　功	豊富町観光協会会長
	鳥谷部　徹雄	猿払村観光協会会長
	谷　智治	利尻町観光協会　会長
	藤田　豊彦	利尻富士町観光協会　会長
	久保　和夫	礼文町観光協会　会長
事務局長	杉川　　毅	未来のくらしと宗谷路（ネットワーク）を考える会
事務局	木村　正志	稚内観光協会　事務員
	斎藤　通義	未来のくらしと宗谷路（ネットワーク）を考える会
監査	鈴木　雄一	稚内商工会議所　事務局長

事務局：稚内観光協会　事務局
〒097-0022
北海道稚内市中央３丁目６番１号 キタカラ１階
TEL：0162-24-1216
FAX：0162-24-0016
Mail　：info@welcome.wakkanai.hokkaido.jp

③分科会

分科会は、景観・環境、情報・観光の２分科会とし、地域住民・活動団体・関係機関の代表者で構成し、それぞれのテーマに沿った運営・企画・研究・活動等を行うことを役割とします。

No	活動団体名	所属分科会	
		景観･環境	情報･観光
1	ＮＰＯ法人 映像コミュニティ・ムーブユー	○	○
2	猿払イトウの会	○	
3	宗谷建設青年会	○	
4	未来のくらしと宗谷路（ネットワーク）を考える会	○	○
5	利尻島を考える会		○
6	利尻富士町宿泊業組合		○
7	稚内観光協会青年部		○
8	稚内商工会議所	○	○
9	稚内青年会議所	○	
10	稚内のみなとを考える女性ネットワーク	○	
11	稚内ホテル旅館業組合		○
12	稚内みなとまちづくり懇談会	○	
13	フラワーマスター稚内	○	
14	稚内市歴史・まち研究会	○	
15	（一社）稚内観光協会	○	○
16	豊富町観光協会	○	○
17	猿払村観光協会	○	○
18	利尻富士町観光協会	○	○
19	利尻町観光協会	○	○
20	礼文町観光協会	○	○
21	宗谷バス株式会社		○
22	ハートランドフェリー株式会社		○
23	浜頓別町商工会	○	
24	浜頓別町観光協会		○
25	NPO 法人クッチャロエコワーカーズ	○	

④その他

この他、ルートの運営に関し代表が必要と判断した場合は、組織の構成･召集を行い開催します。

（３）行政との連携

地域住民・活動団体・関係機関等の情報収集や情報発信のため、稚内開発建設部・宗谷総合振興局・稚内建設管理部・稚内市・猿払村・豊富町・浜頓別町・利尻富士町・利尻町・礼文町との連携を図りながら、運営を行います。

参考資料

（１）当初計画における活動の達成状況

（２）平成 26 年度までのシーニックバイウェイ及びルートの変遷

（３）平成 26 年度までの特徴的な取組み

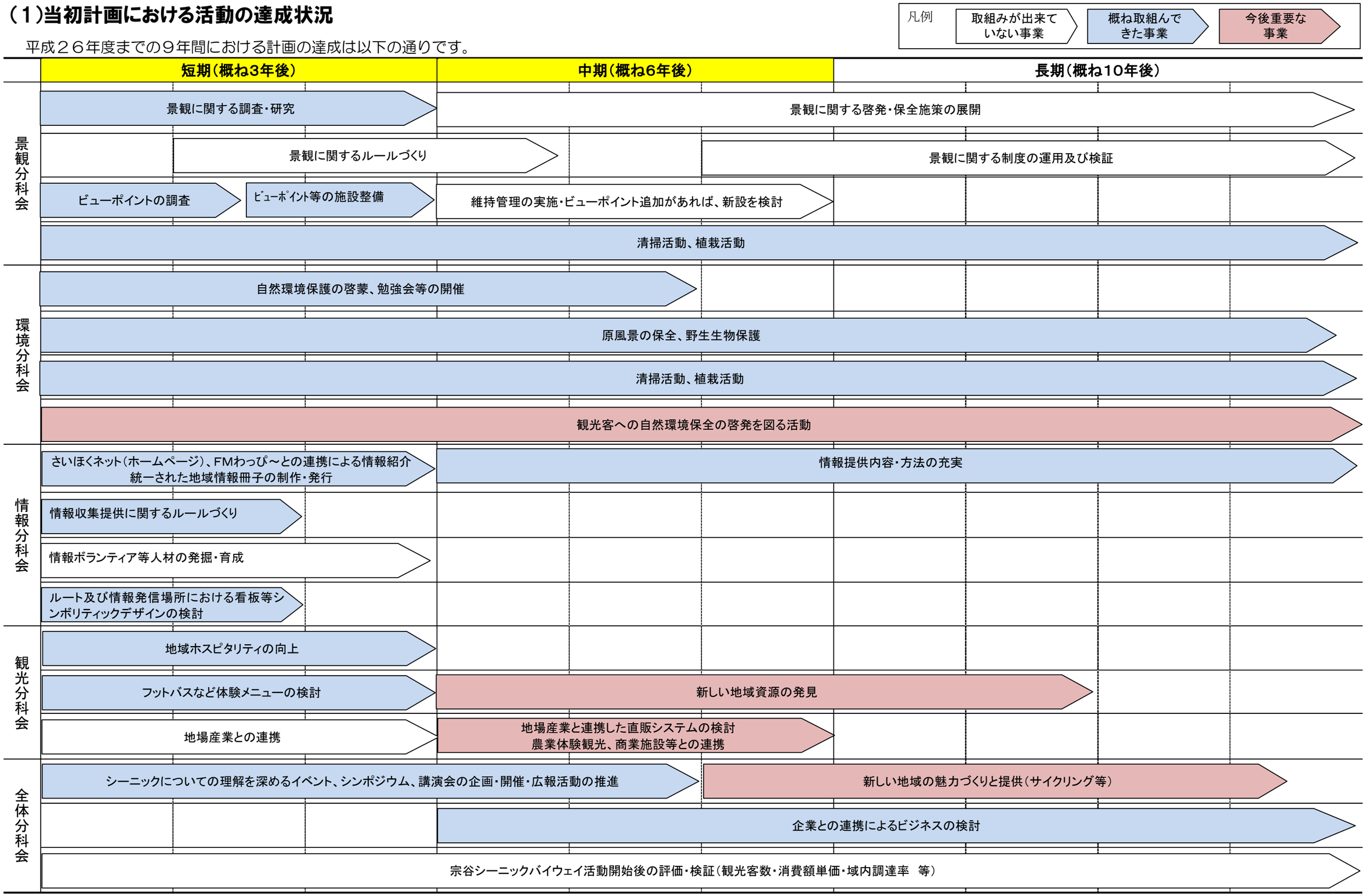
（４）宗谷シーニックバイウェイ　ルート運営代表者会議規約

（５）宗谷シーニックバイウェイのロゴ

（６）ルート運営活動計画の見直し経緯

（１）当初計画における活動の達成状況

平成２６年度までの９年間における計画の達成は以下の通りです。



（2）平成 26 年度までのシーニックバイウェイ及びルートの変遷

年	年	出来ごと
制度検討	2001年 （H14）	◇ 平成14年度の国土交通省重点施策として取り組むことを公表。
	2002年 （H15）	◇ 米国のシーニックバイウェイプログラムの実施状況を調査。日本と米国の制度運営上の社会環境の相違点を把
試行期間	2003年 （H16）	◇「北海道におけるシーニックバイウェイ制度導入モデル検討委員会」（委員長：石田東生筑波大学教授）を設置。試行期間での取り組みを検討開始。 ◇ 千歳～ニセコルート、旭川～占冠ルートの2つがモデルルートとしての活動を開始
	2004年 （H17）	◇ アメリカ・バイウェイ・リソースセンターのヘンリー・ハンカ所長来日。モデルルートを視察 ◇ シーニックバイウェイ北海道の制度素案について、パブリックコメントを実施。 ◇ モデルルートの活動団体のメンバーが参加し、米国シーニックバイウェイの施設を実施。
本格実施 1年目	2005年 （H18）	◇ シーニックバイウェイ北海道推進協議会設立。ルート提案の募集開始。支笏洞爺ニセコルート、大雪・富良野ルート、東オホーツクシーニックバイウェイの3つが指定ルートに認定。
制度化 2年目	2006年 （H19）	◇ **宗谷シーニックバイウェイルート**、函館・大沼・噴火湾ルート、釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウェイの3つが指定ルートに認定。 ◇ シーニックバイウェイ北海道全道フォーラムを大雪・富良野ルートで開催。 ＜宗谷SBW＞◇ ルートとしての一体感や知名度向上につなげるため『**ルートロゴの策定**』を実施。 ◇「産消協働」をキーワードにした『**環境フォーラム**』を開催。 ◇『**景観診断**』を実施。また、国立公園やシーニックの活動についての勉強会、意見交換会を行った（ルート内各自治体ごと）。 ◇ 海岸清掃にて集めた流木を利用し流木プランターを製作する『**彩りプロジェクト**』を実施した。 ◇「稚内港北防波堤ドーム」の夏イベントとして、『**WAKKANAI みなとコンサート**』を実施した。 ◇ 6月～9月の4ヶ月間、各観光協会の気象・イベント・花情報などを毎日のように情報発信・共有する『**観光案内所情報交換**』を実施。 ◇「稚内港北防波堤ドーム」の冬イベントとして、スノーキャンドルでまちを灯す『**彩北わっきゃナイト**』を実施した。
制度化 3年目	2007年 （H20）	◇ 日本風景街道戦略会議「日本風景街道の登録開始」 ◇ どうなん追分シーニックバイウェイが候補ルートに登録。 ＜宗谷SBW＞◇ 空路（航空機）による来訪者へのおもてなしの気持ちを込めて『**稚内空港線花植**』を実施した。 ◇「水産」「酪農」「観光」「サハリン」「エネルギー」いうキーワードにて『**宗谷（稚内）の未来像を考える勉強会**』を実施した。 ◇ 観光と環境の両立を考えた仕組みづくりを行う試行として『**エコ・レージ**』の調査研究を行った。 ◇『**利尻島一周悠遊覧人G（ゆうゆうらんにんぐ）**』を実施。礼文島にて開催している『**最北フラワーマラソン大会**』と連日で実施されており、2島（3町）連携による相乗作用の集客・広報効果が発揮されている。 ◇ 東京・名古屋などの旅行エージェントへのPRや招聘などを連携して行う『**合同キャンペーン＆宗谷観光懇談会**』を実施。
制度化 4年目	2008年 （H21）	◇ 萌える天北オロロンルートが指定ルートに認定。 ◇「シーニックの森づくり」が開始。森の認定をスタート。 ◇ ルート活動の表彰制度「ベスト・シーニックバイウェイズ・プロジェクト」を開始。 ＜宗谷SBW＞◇「宗谷らしい道路景観」を検討する『**道路景観形成検討ワークショップ**』を開催。 ◇ 外国人旅行客を誘致を目指し『**VISIT SOYA シンポジウム**』を開催。 ◇ポニーによる馬そり体験（主にちびっ子相手）を楽しんで貰う『**ポニーを走らす会**』を開催。
制度化 5年目	2009年 （H22）	◇ 十勝平野・山麓ルートが指定ルートに認定。 ＜宗谷SBW＞◇ 地域活性化のメニューと産業 との関わり方について学ぶ『**道路・移住セミナー**』を開催。 ◇「環境と豊かさの両立」をテーマに環境への取組みを全体に広める『**環境意識の啓発活動**』を実施。
制度化 6年目	2010年 （H22）	◇ トカプチ雄大空間が指定ルートに認定。 ◇ 北海道×ローソン×シーニックバイウェイ北海道が協働し、「北海道グルメフェア」を開催。 ＜宗谷SBW＞◇ エリア内の6観光協会長が集い、各地事業の報告、企画等を行う『**観光協会長サミット**』を開催。 ◇ 日本海とオホーツク海に挟まれた稚内で、それぞれの海産物を食べ比べる『**日本海VSオホーツク海グルメバトル**』を開催。
制度化 7年目	2011年 （H23）	◇ 南十勝夢街道、札幌シーニックバイウェイ藻岩山麓・定山渓ルートが指定ルートに認定。 ◇ 北海道×ローソン×シーニックバイウェイ北海道が協働し、「北海道グルメフェア」を引き続き開催。 ＜宗谷SBW＞◇ 環境と観光が共存する取組みとして『**礼文島リボンプロジェクト**』を開始。 ◇ 地域経済及び観光の活性化を目的として『**稚内フットパス**』の整備やプロモーション活動を行った。
制度化 8年目	2012年 （H24）	◇ シーニックバイウェイ北海道推進協議会が民間企業等4社による包括連携協定を調印 ◇ 新千歳空港ターミナルビル「北海道魅力発見博」において、シーニックバイウェイ北海道が連携協力。 ◇ 北海道×ローソン×シーニックバイウェイ北海道が協働し、「北海道グルメフェア」を引き続き開催。 ＜宗谷SBW＞◇ ルート内の新しい観光スポットとして発掘・広報する『**北のトライアングルゾーン**』を発表。 ◇ 映画「北のカナリアたち」のロケ地を新たな観光資源として各々商工会と観光協会界との連携による『**ロケ地活用誘客事業**』の開始。
制度化 9年目	2013年 （H25）	◇全道を3つのブロックに分け、地域との意見交換を行うブロック会議を開始 ◇シーニックの人材育成と新たなアイデアの検討のため、若手会・女子会を開催 ◇層雲峡オホーツクシーニックバイウェイ及び天塩川流域ミュージアムパークウェイが候補ルートに登録 ＜宗谷SBW＞◇映画「北のカナリアたち」のロケ地となった学校を改修し、**北のカナリアパークが礼文島にオープン**。 ◇これからの宗谷地域の観光を考える『**観光ワークショップ**』を開催。
制度化 10年目	2014年 （H26）	◇ 制度の見直し目的に制度検討委員会を開催 ＜宗谷SBW＞◇大雪・富良野ルート、萌える天北オロロンルートと連携し、『**3ルート連携フォトコンテスト**』を実施。 ◇ルート運営活動計画の**見直しに関するワークショップ**を開催 ◇宗谷シーニックバイウェイの**ルート代表が岩間代表から中場代表に交代** ◇**浜頓別町がルートに参加**

（3）平成 26 年度までの特徴的な取組み

現在までの以下のような取組みを行ってきました。

観光案内所情報交換

【概　　要】観光・情報分科会の連携事業として6月～9月の４ヶ月間、イベント・花・グルメ情報、トピックス（マンスリーのみ）の他、天気予報（デイリーのみ）観光情報を集約し発信した。当初は毎月初日のマンスリー情報（日本語版・英語版の時も）、週2～3回の定期的なデイリー情報などの発信としていたが、年数を重ねるごとに内容や手法などを改良し、今年度はウィークリー情報として週刊発信している。

【日　　時】平成18年・ルート指定当初より、現在に至る（※次年度以降も継続予定）

【場　　所】ルート内各観光協会から情報をメールまたはFAX→集約→関係者・団体へ

【主　　催】宗谷シーニックバイウェイ観光・情報分科会、
稚内・利尻富士町・利尻町・礼文島・豊富町・猿払村 各観光協会

彩北わっキャナイト

【概　　要】稚内港北防波堤ドームを約1,000個のスノーキャンドルで彩る。
H25は１０年の節目となる当イベントは、稚内商工会議所主催の『南極ハイランド』、稚内青年会議所主催の「みなみなまつり」との同一会場での連携開催となり、来場者数も年々増加。連携７年目を向え、各団体、町内会等の参加団体も増加傾向にあり、生涯学習教育を同時開催するなど、各々で特色を持ち始めた。

【日　　時】平成18年・ルート指定当初より、現在に至る（※次年度以降も継続予定）

【場　　所】稚内港北防波堤ドーム

【主　　催】稚内みなとまちづくり懇談会

【協力協賛】稚内市、宗谷総合振興局、稚内開発建設部、稚内異業種交流会、稚内観光協会、稚内北星　学園大学、稚内商工高校、市内町内会、大黒地区発展協議会、まちづくり稚内、 中央商店街、稚内青年会議所、北武建設、藤建設、中田組、など

宗谷らしい道路景観の検討

【概　　要】宗谷らしい道路景観形成について、景観に配慮した道路附属施設の整備・改善策の策定のため、「幌富バイパス」並行区間の国道40号・沿線に居住するみなさんと対象路線・地域の資源や課題を意見交換を通じ洗い出した。更に机上で議論した事象の現状を確認するため現地視察を行い、資源や課題について診断した。

【日　　時】（意見交換）平成25年11月19日（火）14:00～17:00
（現地診断）平成26年　1月28日（火）　9:00～12:00

【場　　所】（意見交換）幌延町役場内　2階会議室
（現地診断）国道40号沿線（豊富町・幌延町区間）及び豊富町定住支援センター

【主　　催】宗谷シーニックバイウェイ景観・環境分科会、稚内開発建設部

【参加人数】（意見交換）11名（一般参加）／（現地診断）8名（一般参加）

意見交換の様子

現地診断の様子

3

稚内空港線花植（植樹帯維持活動）

【概　　要】稚内空港線（稚内空港前）の植樹帯を除草し、花植えを行った。観光客のお迎えとして一役を担った。H25から植樹帯の区画を決め、協賛団体にも年間を通して維持管理をお願いしたが、参加団体は前年10団体に対し当年は18団体に増加した。また、子供たちや高齢者、身障者の方々の参加も増えてきた。

【日　　時】平成18年・ルート指定当初より、現在に至る（※次年度以降も継続予定）

【場　　所】道道稚内空港線（稚内空港前）

【主　　催】フラワーマスター稚内

【協力協賛】宗谷総合振興局建設管理部、宗谷建設青年会、稚内開発建設部、稚内市役所、中田組、北武建設、高木組、稚内空港事務所、稚内観光協会、稚内ホテル旅館業組合、宗谷路の会、稚内測量協会、みなとを考える女性ネットワーク、一般市民ほか

利尻島一周悠遊覧人Ｇ（ゆうゆうらんにんぐ）

【内　　容】利尻島一周55㎞を制限時間10時間以内に完走する。大会前日には参加者、地元の人との交流会がある。
【日　　時】平成18年・ルート指定当初より、現在に至る（※次年度以降も継続予定）
【場　　所】利尻島開発総合センターをスタート、ゴールとして一周
【主　　催】利尻島一周悠遊覧人Ｇ実行委員会
【協力協賛】利尻町、利尻富士町、教育委員会、体育協会、観光協会、各企業商店、ＡＮＡ、アサヒビール、石屋製菓、大塚製薬

5

最北フラワーマラソン大会

【概　　要】礼文町観光協会も協賛して記念品（町外参加者のみ）を提供している。
翌日の利尻島一周マラソン（利尻島悠遊賢人Ｇ※ゆうゆうらんにんぐ）とも連携して実施している。
【日　　時】平成18年・ルート指定当初より、現在に至る（※次年度以降も継続予定）
【場　　所】礼文島内
【主　　催】最北フラワーマラソン大会実行委員会
【協力協賛】礼文町観光協会・宗谷シーニックバイウェイ

地域イベントとの連携

6

合同キャンペーン、宗谷観光懇談会(意見交換会)

【概　　要】キャンペーン：東京・名古屋のエージェントに対し、各地域のプレゼンテーションを行い、意見交換をした。
観光懇談会：首都圏のエージェントを稚内に招聘し、宗谷の観光関係者と意見交換を行った。
【日　　時】キャンペーン、観光懇談会とも、断続的に取り組まれ、今後も継続予定
【場　　所】キャンペーン：東京、名古屋　　観光懇談会：稚内市内
【主　　催】宗谷シーニックバイウェイルート観光・情報分科会、北宗谷広域観光推進協議会

7

礼文島リボンプロジェクト

【概　　要】宗谷シーニックバイウエイの一員としての行政が、地域の「暮らしや産業」とマッチングが良く、何より持続可能な取り組みとしての「礼文島リボンプロジェクト」を平成23年度から行った。25年度末では約1,300万円の基金積み立てが予測されており、26年度からは基金の主旨に添った支援等に使われる予定。内容は礼文町のHPで公開している（www.town.rebun.hokkaido.jp/ribon）。「ベスト・シーニックバイウエイズ・プロジェクト2011」ルート審査委員特別賞受賞
【日　　時】平成２３年～平成２６年度内
【場　　所】礼文島内
【主　　催】礼文町観光協会

フェリーターミナル内でルート情報と共に告知

北のカナリアパークオープンに合わせてゴールド版を制作

8

稚内フットパス（地域資源活用）

【概　　要】稚内市内の地域資源を活かしたフットパスコースの整備及びＰＲ活動。
稚内市を始めとする行政や観光関係機関、地元事業者等との連携により、観光客の誘客や小規模事業者の持続的発展と地域経済の活性化を図ることを目的に、稚内市内のフットパス整備やプロモーション活動を行った。
【日　　時】平成23～24年度
【場　　所】稚内市内
【主　　催】稚内商工会議所・宗谷シーニックバイウェイ

アルメリア

ハイブリットバスで行こう

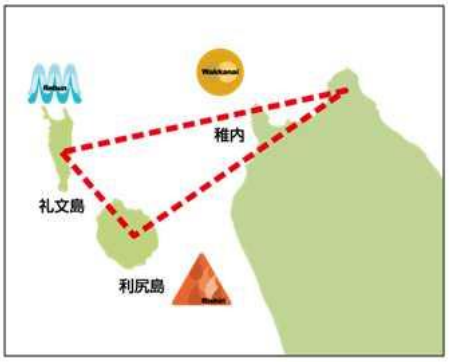
エゾカンゾウ

ＥＶ車事業

【概　　要】最北の国立公園を有する宗谷シーニックバイウェイ。稚内市は環境都市宣言をしており、メガソーラー、風力発電、バイオエネルギーセンターなど自然再生エネルギーへの取組みが盛んです。大自然のなかのドライブ観光にＥＶ車や自然再生エネルギーの活用で「環境と観光」のゼロ・エミッションの可能性を探る。
【日　　時】平成２３年9月～１１月
【場　　所】稚内市・利尻島・礼文島
【主　　催】未来のくらしと宗谷路（ネットワーク）を考える会

パワースポット発掘・広報（新観光資源開発）

【概　　要】利尻・礼文・稚内において、20～30代の女性をターゲットにした観光資源開発のひとつとして風水におけるパワースポットを調査して宗谷シーニックバイウェイ内の新しい観光スポットとして発掘・広報。
【日　　時】＜準備＞平成22～23年度　＜広報＞平成24年6月～
【場　　所】稚内市・利尻島・礼文島
【主　　催】稚内観光協会青年部・稚内観光協会・利尻町観光協会・利尻富士町観光協会・礼文島観光協会



映画のロケ地活用による誘客事業（新観光資源開発）

【概　　要】映画「北のカナリアたち」のロケ地となった利尻町・利尻富士町・礼文町・豊富町・稚内市において、新しい観光資源としてロケ地跡や縁の地をベースに商業界と連携を図り宗谷シーニックバイウェイ内の新しい観光への取り組みとして調査・研究。平成２６年は、モニターツアー等を実施した。
【日　　時】平成２４～２６年度
【場　　所】稚内市・利尻島・礼文島・豊富町
【主　　催】稚内商工会議所、稚内観光協会、利尻町・利尻富士町・礼文町・豊富町　各観光協会および商工会

（４)宗谷シーニックバイウェイ　ルート運営代表者会議規約

宗谷シーニックバイウェイ　ルート運営代表者会議規約

（名称）

第１条 この会議は、宗谷シーニックバイウェイルート運営代表者会議（以下「代表者会議」）という。

（目的）

第２条 この代表者会議は、ツーリング環境・航路・散策路など宗谷地域における自然・景観・文化・歴史など様々な資源を理解し、それぞれの資源と共生を図りながら広域的な観点で個性豊かな魅力づくりを目指すことを目的とする。

（対象地域）

第３条　対象地域は、稚内市・猿払村・豊富町・礼文町・利尻町・利尻富士町・浜頓別町の地域とする。

（代表者会議の構成）

第４条　この代表者会議は、第２条の目的に賛同し、その推進のための活動を希望する団体で構成する。（ただし、政治、宗教などの宣伝目的の参加や反社会的な活動団体は認めない。）

（活動）

第５条　この代表者会議は、第２条の目的を達成するための運営、企画・活動等を行なうものとする。

（運営）

第６条　この代表者会議の運営に必要な経費は、協賛金、助成金及びその他の収入を持ってこれに充てる。

（役員及び役員の職務）

第７条　　この代表者会議には次の役員を置く、代表１名、副代表２名及び幹事若干名、事務局長１名、事務局次長１名。

（１）代表は、代表者会議を代表し、会議の招集及びこれを主宰する。

（２）副代表は、代表を補佐し、代表に事故があるときは代表に代って職務を行なう。

（３）幹事は、各地域からの代表１名以上で幹事会を構成し、代表者会議の企画・運営を行なう。また、必要に応じて専門部会を置くことができる。

（４）事務局長は、代表者会議の事務、会計を処理する。

（５）事務局次長は、事務局長の職務を補佐する。

2 この代表者会議の役員は総会で選出し、任期は２年とする。ただし、再任は妨げない。

3　この代表者会議に、専門的な見地を持ったアドバイザー及びオブザーバーを置くことができる。

（会議）

第８条　この代表者会議の総会・幹事会・専門部会は代表が必要に応じて招集する。

（会計年度）

第９条　この代表者会議の会計年度は、７月１日より翌年６月 30 日までとする。

（規約の改正）

第 10 条　規約の改正は、総会において決定する。

（その他）

第 12 条　この規約に定めるもののほか、代表者会議の運営に関し必要な事項は幹事会において別に定めることができる。

（附則）

この規約は、平成 17 年７月１日から施行する。

（５）宗谷シーニックバイウェイのロゴ

宗谷シーニックバイウェイでは、事務局と情報分科会が中心となり検討し、平成 18 年９月にロゴを決定しました。決定に当たっては、「宗谷」をわかりやすく表現することは勿論、視認性の良さ、様々な印刷物などで利用しやすいシンプルさ等に注意しました。

今後は、宗谷シーニックバイウェイが関係する印刷物や各種イベント等での使用を考えております。

＜ロゴの意味と仕様＞

ロゴには、以下に示すような意味を持たせています。

宗谷シーニックバイウェイロゴ色

色	DIC	CMYK				RGB		
		C	M	Y	K	R	G	B
緑	212	65	8	95	0	95	173	60
青	221	95	50	0	0	0	106	183
橙	120	0	58	100	0	240	135	0

（６）ルート運営活動計画の見直し経緯

年度	宗谷シーニックバイウェイ	ルート運営活動計画
平成１８年	・審査委員会の視察受入 ・活動計画を推進協に提出	・活動計画を策定 ・活動計画に対して関係市町村の首長から意見照会
平成 19 年	・指定ルートに認定	
平成 20 年		
平成 21 年	・稚内市歴史・まち研究会が参加	・活動団体の追加
平成 22 年		
平成 23 年		
平成 24 年		
平成 25 年		
平成 26 年	・活動計画の見直しを行うワークショップ、ルート運営代表者会議を開催（H26.10 月　H27.3 月）	・活動計画を全面的な見直し ・見直しした活動計画について、関係市町村の首長から意見照会

※宗谷シーニックバイウェイルート運営活動計画＝活動計画
※シーニックバイウェイ北海道推進協議会＝推進協
※シーニックバイウェイ北海道推進協議会ルート審査委員会＝審査委員会

＜平成２６年度　改訂概要＞

○浜頓別町の参加によりルートエリアが拡大し、７市町村に変更（６市町村→７市町村）

○浜頓別町のロード名を追加（はまとんべつスワットンロード、はまとんべつゴールドラッシュロード）

○浜頓別町を拠点に活動する「浜頓別町商工会」「浜頓別町観光協会」「NPO 法人クッチャロエコワーカーズ」の参加により、活動団体に追加

○景観、環境、観光、情報の４つの目標、方針を定め、これまで活動を進めていたが、密接な関連性がある景観・環境、観光・情報の２つの目標、方針に変更した

※目標・方針は、これまでの目標・方針を基本に、活動団体との議論による意見を反映した。

○個別活動団体の課題や取組み等の基礎情報を更新

○ルート代表や幹事などの役員を変更

○参考資料として、計画の達成度や平成 26 年度までの経緯、ロゴについて追加

Soya Scenic Byway

April 2015